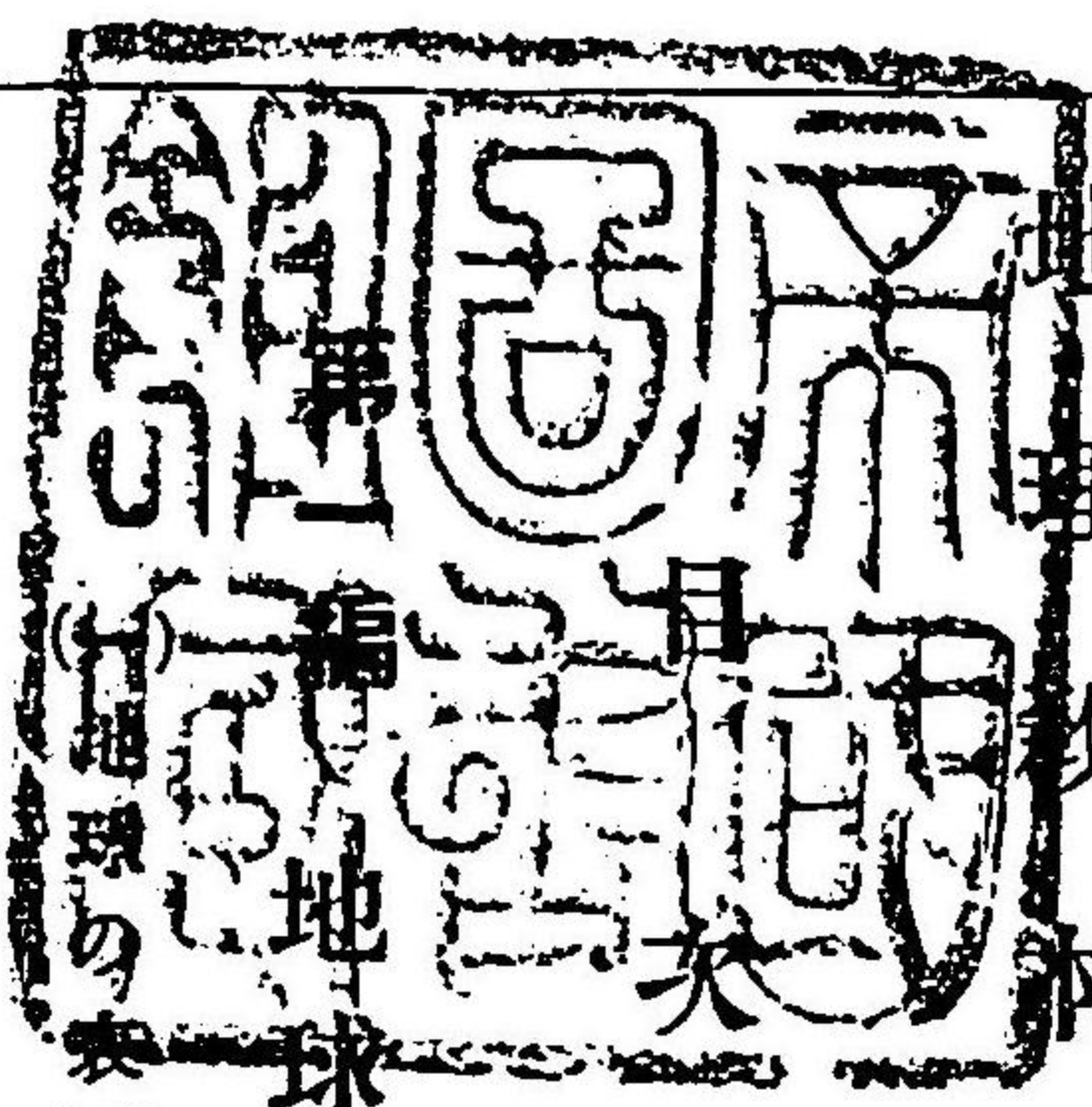


地理教本

(外國編上)



地球總論

- (一) 地球の表面。
- (二) 大洲および大洋。

- (三) 寒暖の五帶。

第二編 亞細亞洲

第一章 自然總說

- (一) 境域。
- (二) 地勢。
- (三) 氣候。
- (四) 產物。
- (五) 區劃。

第二章 韓(朝鮮)

目次

一頁
 三頁
 五頁
 三二頁



第三章 清(支那)……………三—四

- (一) 支那本部。
- (二) 滿洲。
- (三) 蒙古。
- (四) 新疆省。
- (五) 青海。
- (六) 西藏。

第四章 亞細亞露西亞……………六—六

- (一) シベリア。
- (二) 中央亞細亞。
- (三) コーカシア。

第五章 亞細亞トルコ附アラビヤ……………六—六

第六章 イラン地方……………六—六

- (一) ペルシヤ。
- (二) アフガニスタン。
- (三) ヘルナスマン。

第七章 印度……………六—七

第八章 印度支那半島……………七—七

第十章 人事約説……………七—八

- (一) 住 民。
- (二) 國 勢。
- (三) 生 業。
- (四) 交 通。

第九章 マライ諸島……………七—七

- (一) ビルマ。
- (二) 海峽殖民地。
- (三) 暹 羅。
- (四) 佛領印度支那。

第三編 大洋洲……………八—九

第一章 自然總説……………八—八

第二章 オーストラリア……………八—七

附タスマニア。ニューシランド。

第三章 メラネシア・ミクロネシア・ポリ

ネシア……………八—七

第四章

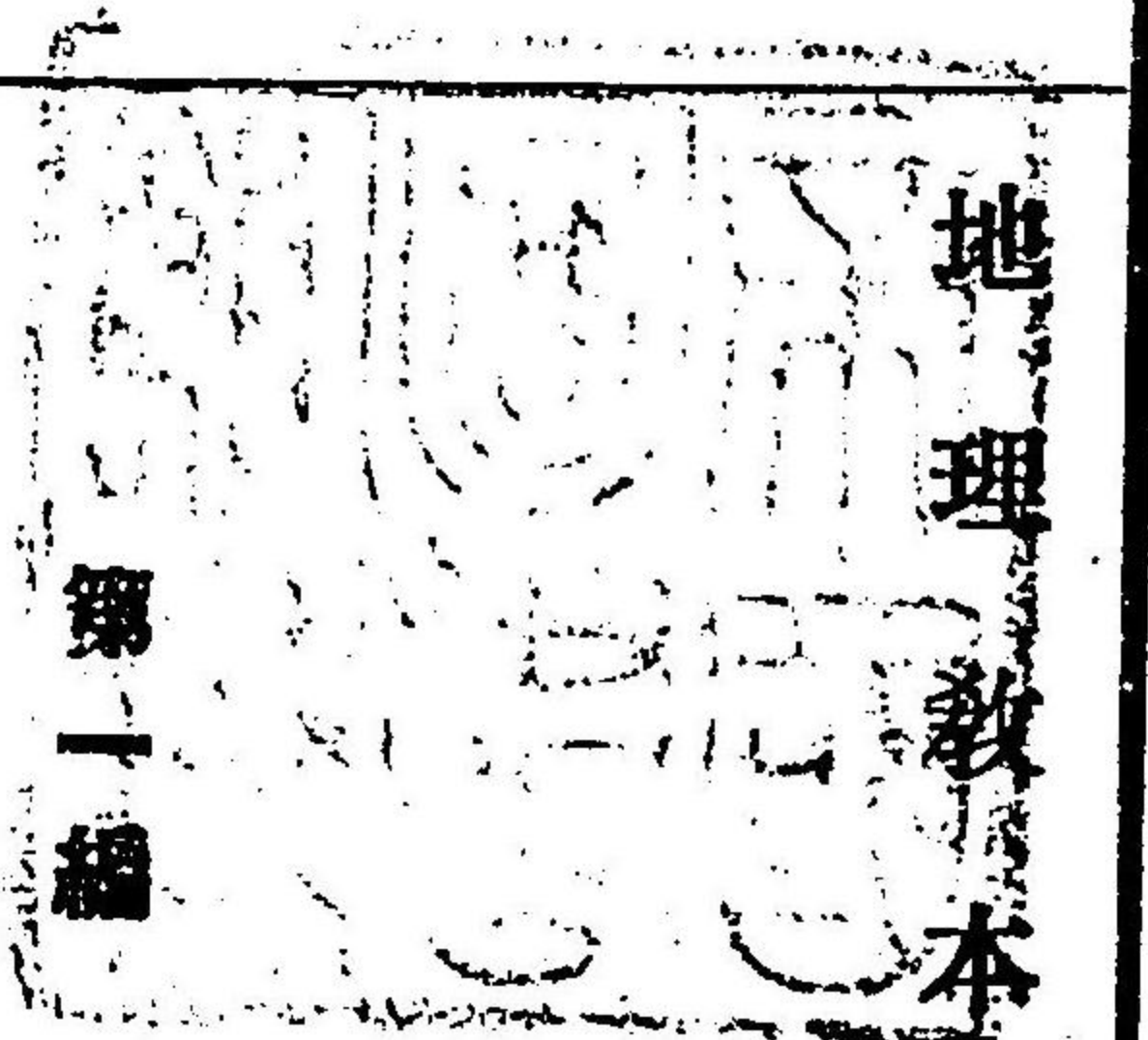
- (一) 住民國勢
- (二) 生業交通

さ—き

目次終

地理教本

(外國編上)



地球總論

理學士 瀧本 鑑三
 榎山 榮次 共著

地球の表面

地球の大きさ

(一) 地球の表面 全世界は球形なるがゆゑに、これを地球と名づけ、地球の表面は陸と水とより成り、水は陸の三倍あり。

地球は、この天地間の一遊星にて、太陽の周圍をめぐらるものなり。その直徑はおよそ三千二百餘里、その周圍はおよそ一萬〇二百餘里あり。

陸上の高

陸上には、山ありて高く、谷ありて低く、その最高峯は二萬九千尺、即ちわが富士山の二倍以上あれども、これを廣大なる全地球にくらぶれば、まことに僅少の凹凸に過ぎず、恰も橙の皮面に小凹凸あるが如し。

大洲

(二) 大洲および大洋 陸地はいづれも水に圍まる。その小なるを島といひ、大なるを大陸、または大洲といふ。地球を東西兩大部に分つ時は、東半球に、亞細亞洲、歐羅巴洲、亞弗利加洲、大洋洲の四大洲あり。西半球に、南北亞米利加の二大洲あり。故に地球上の陸地を六大洲に大別す。

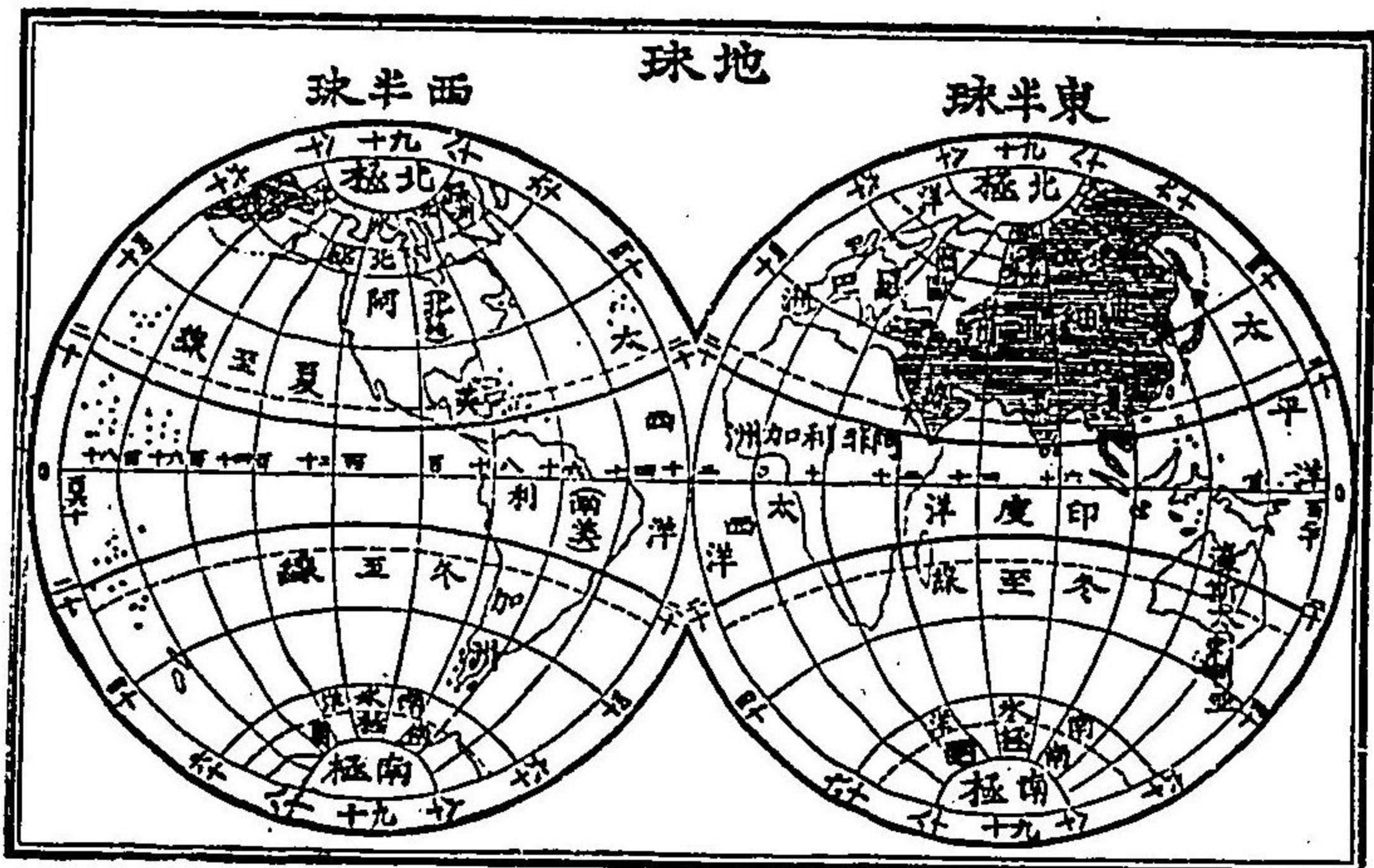
大洋

海水は、全地球上互に連接すれども、その小なる部分を海、または灘といひ、その大なるを大洋といふ。大洋を五に大別し、太平洋、大西洋、印度洋、北氷洋、南氷洋といふ。

寒暖の五帶

(三) 寒暖の五帶

地球表面の氣候は、南北により同一ならず。中央は最も熱く、それより南北に隔たるに従ひて次第に寒くなり、終に生物の生活すること能はざる寒冷となる。今、大體の寒暖により、五帶に大別すること左の如し。



まず地球表面の南北の中央に、假りに一線を設け、これを赤道と稱す。それより南極と北極とに至るまでを、各九十度に分ち、赤道より南北、各二十三度半の線を南北の

回・歸・線といひ、南北兩極より、各二十三度半の線を南北の極
圈といひ、赤道を中心として、兩回歸線の間を熱・帶とし、兩回
歸線と兩極圈との間を溫・帶とし、兩極圈と兩極との間を寒
帶とす。

第二編 亞細亞洲

第一章 自然總說

境域

(一)境域 亞細亞洲は、五大洲の中に於て最も大きく、北は北
極圈を超えて北氷洋に濱し、南は殆ど赤道に達して印度洋
に臨み、東は太平洋に臨み、西は歐羅巴洲に接し、なほ一部は
地中海に臨み、亞弗利加洲に接す。

本洲の廣さは、東西の最も廣きところは二千八百里、南北は
二千一百里、面積は二百八十萬方里ありて、實に全地球上の
陸地の三分の一を占む。

海岸

(二)地勢 海岸の出入頗る多く、かつ處々に大半島あり、東

海岸

方の太平洋岸を見るに、最北に東岬ありて、ベールディング海峡を隔て北亞米利加洲の西北端とあひ對す。その南方にカムナ、カ半島突出し、千島列島とともにオコック海を抱き、西側に樺太島あり、この近海より北は、年中氷結の期多し。南すれば日本群島、朝鮮半島、印度支那半島、フィリピン群島などありて、日本海、黄海、東海、支那海などを抱く。

南方の印度洋には、大半島三あり、東なるはマライ半島にて、印度洋と太平洋とを境し、中なるは印度半島にて、東にはベングアル灣あり、西にはアラビア海を抱く。アラビア半島はその西にあり、ペルシア灣と紅海とを左右に抱く。スエズ運河を北に出づれば地中海にて、小亞細亞半島により黒海を隔つ、この兩海の水は、海峡によりてあひ通ず。北方の海岸は、出

山系

入なきにあらざるも、氣候寒く、氷結の期長く、舟運の便なし。本洲には、雄大なる山脈多し。その中心は、「世界の屋根」と稱せらるるバミル高原にて、諸山系これより諸方に向ふ。ヒマラヤ山系は東南に走り、その中に世界第一の高峯エバレスト聳え、平均の高さ二萬二三千尺あり。崑崙山系は東方に走り、ヒマラヤ山系との間に西藏の高原を造り、またその脈延びて海を渡り、日本に入れることは、日本地理に述べたり。また天山山脈、阿爾泰山脈は、東北に走り、なほ以上の大山脈より、支那の南嶺、北嶺、興安嶺、およびシベリアのヤブロノイスタノボイなどの山脈に連る。

またバミル高原より西南に走るものは、ヌリマン山系にて、西に走るものは、ヒンズークーシユ山系なり。この山系は、西

水系

方エ・ル・ブ・ールズ山系に連り、その南方は即ちイラン高原なり。本洲の水系は、以上の山系によりて方向定まり、東西南北に流れて海に注ぐ。北流して北氷洋に注ぐものには、オビ・エ・ニセ・イ・レ・ナ・の三大河あり、太平洋に注ぐものには、黒龍江・黃河・揚子江・メ・コンの四大河あり。印度洋に注ぐものには、イ・ラ・ワ・ダ・ブ・ラ・マ・プ・ト・ラ・ガ・ン・ジ・ス・イ・ン・ダ・スの四大河あり。これらの流域には、いづれも廣大なる平野を造り、殊に東南の平野は地味肥沃にて、産物豊饒なり。その他にも、なほ河流多し。

湖沼

湖沼にては、西部に裏海ありて、世界第一の大湖なり。その東方に、ア・ラ・ル・海・バ・ル・カ・ン・ユ湖あり。いづれも鹹湖なり。なほ東北方に、バ・イ・カ・ル湖あり、本洲淡水湖の最大なるものなり。

氣候

(三)氣候 本洲の大部分は温帶中にあれども、土地の高低

地面の傾斜種々なれば、各地方の氣候に大差あり。加ふるに北は寒帶に入り、南は熱帶に入るにより、南北寒暑の差もまた甚し。今、左に各地方氣候の大體を述べべし。

北部のシベリア地方は、緯度も高く、地面北に傾くにより、寒氣甚しく、その北方は、地球上最寒地の中に數へられ、永久の凍氷、地上を覆ふ。雨量は、甚だ少なし。

東部沿海地方は、溫和にて、南部の沿海地方は、炎熱なれども、氣候概してよろしく、降雨多し。この地方は、多く氣候風吹き來り、夏季には、西南より溫暖にて濕氣多き風吹き來り、冬季には、東北または西北の寒風吹き來るを常とす。この氣候風の交代する期節には、大抵支那沿海に恐ろしき颶風を起す。この颶風は、夏秋の際、わが國にもその影響を及ぼすなり。

産物

西藏蒙古などの中央高原地方は、大陸氣候として寒暑ともに甚しく、かつ空氣乾燥せるゆゑ、降雨少なく、遂にゴビ沙漠の如きものを生ぜしめたり。西南のイラン高原アラビヤ地方も、空氣乾燥、降雨缺乏なるゆゑ、處々に沙漠あり。地中海岸の地方は、氣候頗る溫和なれど、なほ大陸性氣候たるを免れず。

(四) 産物 本洲の産物には、種類甚だ多く、殊に東南肥沃の地には、物産豊かなれども、北部寒冷の地、および西部の瘠土には、少なし。

熱帶地方には、米・綿・甘蔗・珈琲・藍・椰子、および大樹・香料・染料、并に獅子・象・虎・犀・水牛などの獸類、その他有毒なる蟲類、美麗なる鳥類多く、温帶地方には、米・麥・茶・桑・諸種の果實、有用なる樹木、牛・馬・犬・羊、および諸種の野獸類を産し、寒帶地方には、植物

區劃

地勢上の區劃

の大なるものなく、概して草野をなせり。動物には、馴鹿・熊・熊、および海獸の類なり。各地方とも、沿海の地には、海産物多し。礦物は、各地に産出す。金・銀・白金・銅・鐵・石炭・金剛石、その他寶石類あれども、採掘の方、いまだ十分ならざるところ多し。

これを要するに、支那の東南部、およびインド平原などは、農産物を出だすこと多く、シベリアの南部、支那の南部には、森林多く、馬・駱駝などは、西亞細亞に多く、海産物は、東北の海に多く、鑛産は、阿爾泰・崑崙などの山脈中に多し。工業も、印度およびわが日本にて、近來大いに發達せり。

(五) 區劃 すでに述べしが如く、本洲の地勢は、バミル高原を中心として、大山脈四出せるゆゑ、自然に四大區劃をなせり。即ちヒマラヤ山系と、天山、および阿爾泰山脈の東方は、東

邦制上の
區劃

部亞細亞にて、ヒマラヤ山系とスリマン山系との南方は、南部亞細亞なり。スリマン山系とモンツークーシ山系の西方は、西部亞細亞にて、その北部一帯の地方は、北部亞細亞なり。更にこれを邦制上より見る時は、多くの邦國に分れ、その中に、獨立國と、他國の保護を受くるものと、全く他國の領地となれるものとあり。わが日本を始めとして、**韓**・**清**・**暹**・**羅**・**ペル**・**シ**・**ア**は獨立國なれど、その他は、少部分を除く外、**歐**・**米**諸國の領地もしくは保護國なり。本書は、左の順序に因て述べむ。

(一) 韓 (二) 清 (三) 亞細亞露西亞 (四) 亞細亞トルコ附アラビア
 (五) イラン地方 (六) 印度 (七) 印度支那半島 (八) マライ諸島

面積一
四千方
八百里
人口六
萬

第二章 韓 (朝鮮)

地勢 海岸 山脈

(一) 境域 韓國は、古より諸種の變遷を経て、國號も屢變り、或は**新羅**、或は**高麗**、或は**朝鮮**といひたりしを、近年韓と定めぬ。亞細亞洲の東部にある半島國にて、わが國の本州より少しく小なり。北は清國とシベリアとに接し、その他の三面は海に臨み、南方は朝鮮海峽を隔てて、わが對馬國とあひ對す。

(二) 地勢 東海岸は出入少なく、かつ斷崖にて港灣に乏し、南と西との海岸には、出入多くて良港あり。また近海に島嶼羅列す。南岸には、**釜山**・**浦馬山**・**浦**などあり。西岸には、**木浦**・**群山**・**浦濟物**・**浦鎮**・**南浦**などあり。島嶼にては、**南海**の**絶影島**・**巨濟島**・**閑山島**・**巨文島**・**濟洲島**・**西海**の**珍島**・**群山島**・**豊島**・**江華島**著し。國中に山岳多く、北境の**白頭山**を最高とし、その山脈南方に

連りて、地勢を東西に兩斷す。東部は狭くて平地なく、西部は廣くて平野多し。また處々に支脈を出だして、東西に連互し、その間に河水多く東西に流る。

河流の大なるものにて、北方の鴨綠江は、西南に流れて黃海に入り、圖們江は、北東流し、更に南に折れて日本海に入り、次に大同江、漢江、錦江は西に流れ、洛東江は南に流る。

(三)氣候 氣候は、わが國よりは寒暑ともに烈し。漢江の如き、冬は全く氷結すれど、その近傍は、夏季の炎暑甚し。南部は、やや溫和なり。雨量は、夏季に多く、東南岸は西岸より雨多し。

(四)産物 農産物は、米・豆類・人參・麻綿などを出だし、牧畜も頗る盛んにて、牛・馬・豚などを飼ふ。野獸には、虎・豹・鹿・猪などあり。近海には、鱣・鯖・明太魚・鱒・鱈など多きも、漁業法甚だ幼稚なり。

地方誌

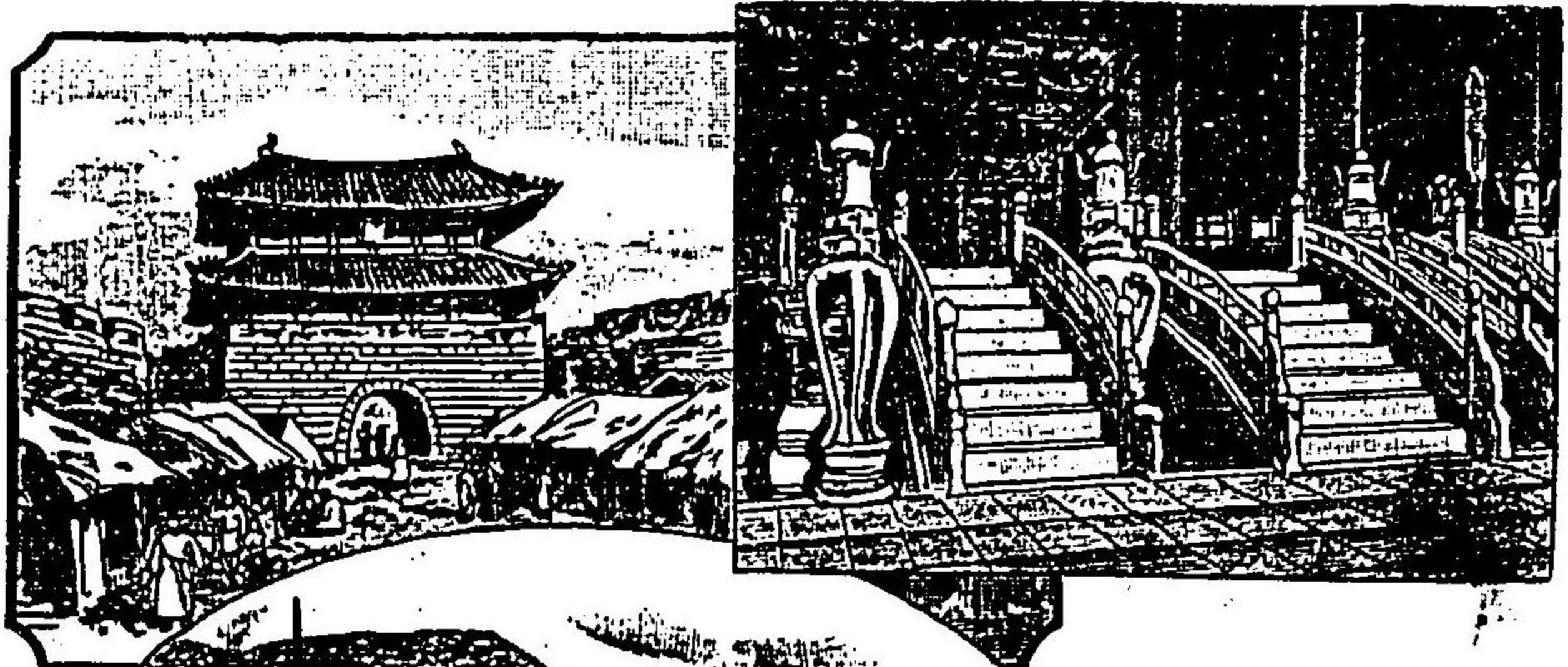
り。林産は、北部に多きも、その他は、秃山多くて、森林に乏し。鑛物にては、砂金と鐵とに富み、銅・石炭などあれども、採掘の法いまだ盛んならず。

- (五)地方誌 韓國は、もと八道に分たれしを、現今は十三道とせられぬ。即ち左の如し。
- 京畿道 忠清北道 忠清南道 全羅北道 全羅南道
- 慶尙北道 慶尙南道 江原道 咸鏡南道 咸鏡北道
- 平安北道 平安南道 黃海道

京畿道 京城

京畿道は、國の中央部にて、漢江貫流し、その流域に平地多し。韓の首府京城は、漢江の北岸にあり、漢城または漢陽と稱し、人口およそ二十五萬あり。市街不潔にて、住民の家屋は矮陋なれども、諸官衙にはやや見るべきものあり。わが公使館お

仁川港



よび領事館もこの地にあり。京城の西南およそ六里に、仁川港あり。京城より鐵道と漢江とによりて交通便利

なり。この港は韓國最要の貿易港にて、米、豆、類、人參、砂金、牛皮などを輸出すること多し。但し船舶の泊するところを濟物浦といふ。その前面に江華島あり、西南に豐島あり、この近海は、明治二十七

忠清道

公州府

群山浦

全羅道
全州

木浦

慶尙道

釜山浦

八年戰役の時、最初の海戰ありしところなり。

京城より南行するときは忠清道に入る。成歡、牙山などの古戰場を経て、錦江を渡り全羅道に入る。忠清道は、地味肥沃にて、農産豊饒なり。公州府には、忠清南道の政廳あり、錦江に臨み、原野開け、運輸便利なり。錦江の下流には、群山浦ありて開港場なり。

全羅道も、農産物に富む。全州は、全羅北道の政廳所在地にて、その西南海岸に木浦あり、開港場なり。本道の近海には島嶼多く、巨文島は、曾て英吉利人の占領したることありし島にて、濟州島は韓國第一の大島なり。

慶尙道は、韓國の東南部にて、洛東江貫流し、地味肥沃なり。海岸には、馬山浦、釜山浦などの良港あり。釜山浦は、古よりわが

馬山浦

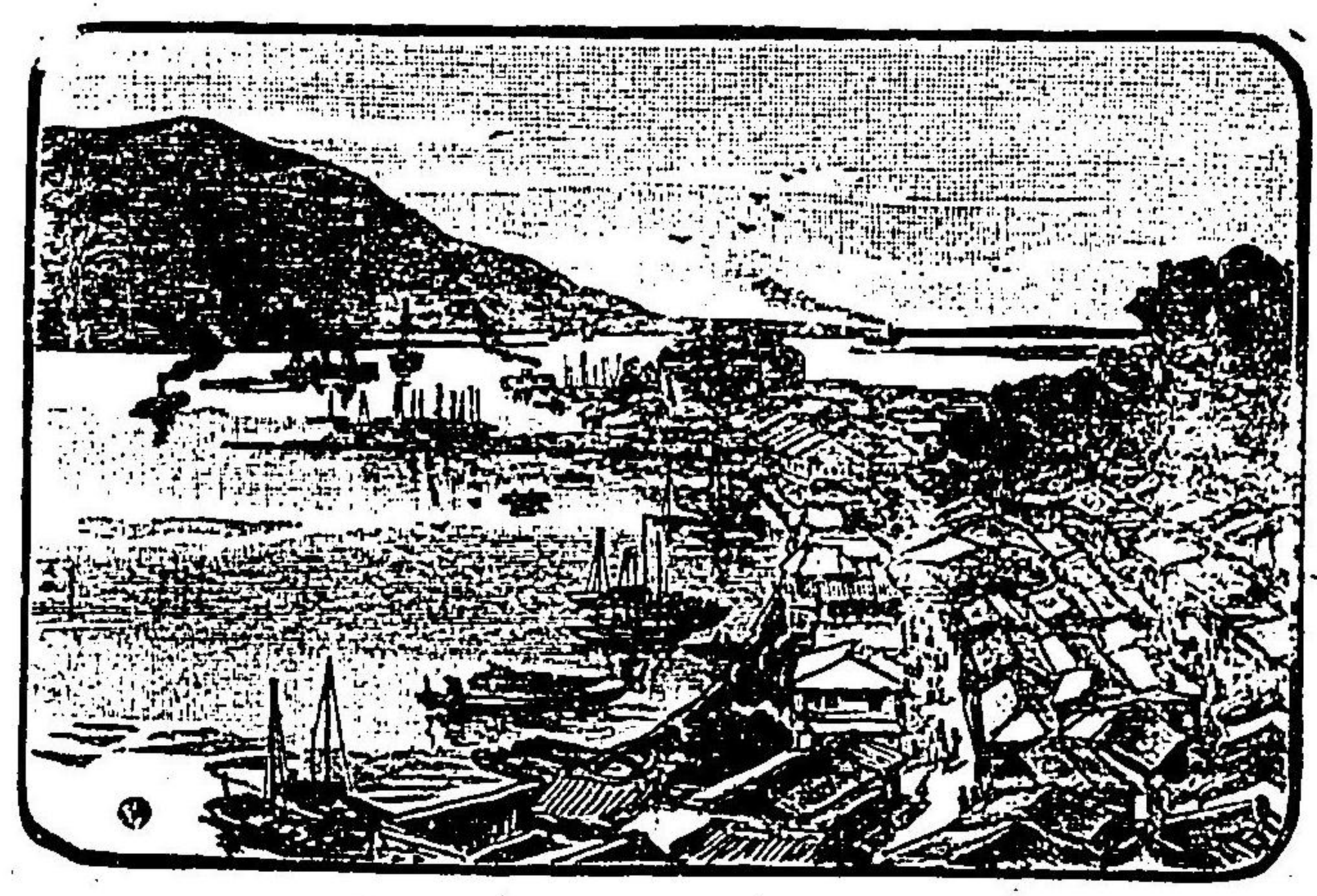
國と交通頻繁にて、今もわが居留民甚だ多し。わが國にて敷設すべき京釜鐵道は、今、工事中にて、釜山と京城とを連接するものなり。馬山浦は近年開けたる開港場なり。また釜山浦の東北に蔚山あり、加藤清正の籠城苦戦せしところなり。

江原道

慶尙道より東海岸を北行すれば、江原道に入る。城内山多くて、土地瘠せたれども、沿海に明太魚を捕ふること盛んなり。

咸鏡道

咸鏡道は東北部にて、北方圖們江を境として、清國とシベリ



釜山浦

元山津
城津浦

アとに接す。海岸には、元山津と近年開港場となりし城津浦とあり。域内に山多く、砂金、石炭に富み、近海には漁利多し。

平安道

平安道は、韓國の北西部にて、鴨綠江により清國と境す。域内に河流多く、土地頗る開けたり。大同江の北岸に平壤あり、韓

平壤

國北部の大都會にて、豊臣氏の朝鮮征伐、および二十七八年

戦役の時に激戦のありしところなり。大同江は、大同灣に注

鎮南浦

ぎ、江口に鎮南浦あり、近年開港場となりたり。また北境鴨綠

義州

江に臨む義州は、清國通路の要地にて、陸地貿易盛んなり。

黃海道

黃海道は、平安道と京畿道との間にあり、地質黄土よりなり、田圃能く開け、大豆を産す。

住民

(六)住民 韓國の人種は、わが國と同じく蒙古人種に屬す。住民には、兩班、中人、常漢、奴婢の階級ありて、その制甚だ嚴重

なり。教育は振はず、上流の人民は、漢文を用ふれども、通常のもの、今は大いに衰へ、下流のものは巫女などを信ず。人民は一般に懶惰にて睡眠を貪り、また沐浴すること少なく、家屋は陋隘なり。

政治

(七)政治 君主專制の國にて、皇帝の下に議政府あり、總理大臣と諸大臣とにて組織す。次に内部、外部、軍部、度支部、法部、警部、學部、農工商部の八部ありて、各部に大臣を置く。地方には、各道に觀察使あり、道の下に郡ありて、郡守を置く。兵制は、甚だ不完全にて、僅に五千の兵あるのみなり。

生業

(八)生業交通 人民は、古より農業、牧畜を業とし、工業はいまだ振はず、日用品は多く外國より輸入す。商業の如きは、市

交通

場を定めて物品交換するを常とす。外國との貿易は、日本支那、英吉利、露西亞などとの間に盛んにて、米、大豆、牛皮、砂金、人参などを輸出し、木綿、綿絲、マツ、金屬品などを輸入す。その輸入額の三分の二は日本品なりといふ。

道路は甚だ不完全なれど、京仁鐵道はすでにあり、京釜鐵道も工事中なるゆゑ、次第に便利とならむ。河流には、船舶を通ずべく、沿海の航路も多けれども、本國には帆船と二三の小汽船あるのみにて、わが國の郵船會社、および商船會社にて、殆ど航路の全權を占む。郵便、電信の制も、近時次第に進歩す。

面積七方十億
人口四萬
三人一萬
境域千萬

第三章 清 (支那)

(一)境域 清國は、殆ど東部亞細亞の全部を占め、境域の大

なること、歐羅巴全洲よりも廣く、わが國に二十六倍す、東は韓國に隣り、黃海、東海、支那海に臨み、北と西とは露領に界し、南は印度と印度支那とに接す。

地勢
海岸

(二)地勢 海岸線は、面積に比して甚だ少なし。そは、濱海は東方一面のみにて、かつ、出入多からざればなり。北部に遼東半島と山東半島とありて、渤海を抱き、中に直隸灣と遼東灣とあり、また遼東半島の南岸に旅順口あり、山東半島の北岸に威海衛、南岸に膠州灣ありて、いづれも二十七八年戰役後、殊に有名となりたり。

山東半島より南は、海岸半圓形に突出し、小出入あるのみなれども、良港に乏しからず。臺灣海峡を南に出づれば、廣東灣あり、その西南には雷州半島突出し、海南海峽を隔てて海南

山脈

島とあひ望む。その西方は即ちトンキン灣にて、印度支那半島の境界に達す。

地勢は、東南に平野あり、北部および西部には高原あり、西境はパミル高原に接し、パミル高原の東方を限るは葱嶺にて、それより天山、阿爾泰山、東北に走る。崑崙山系は、西境より東に向ひて域内を走り、南嶺、北嶺の支脈を出だして、東南部の地勢を區劃し、また北するものは興安嶺に連接す。ヒマラヤ山系は、西南の境界を限り、阿爾泰山脈は更に延びてヤブロンイスタノポイ兩山脈に連り、露領に入る。

河流

右の諸山脈によりて、河流の方向定まり、東流するものには、廣東河、揚子江、黃河の三大河ありて、その流域は、いづれも大平野をなし、また南嶺は、廣東河と揚子江との間、北嶺は揚子

江と黄河との間にありて、おのづから平野を區劃す。黄河には、渭水、洛水など注ぎ入れども、處々に淺瀨ありて、運輸の便なきのみならず、暴河にて田圃、家屋などを害すること多し。楊子江は、水深く灌漑、舟運ともに利益多く、數百里の間、大汽船を通航せしめ、沿河に開港場多し。廣東河は、下流を珠江と稱し、南部の大河にて、流域は肥沃なる平野なり。また東北部には、白河、遼河、黒龍江あり、松花江と烏蘇里江とは、黒龍江に入る。

崑崙山系より北方は、新疆および蒙古の高原地にて、沙漠多く、河流は多く露領に流れ入る。ただ天山南方のタリム河は、西境より發して東に流る。崑崙山系より南方は、西藏高原にて、河流は多く東流す。ただブラマプトラ河は、東南部より谿

湖水

谷の間を南流して印度に入る。
湖水には、楊子江の南方に、洞庭湖、鄱陽湖ありて、その水楊子江に入る。また中央の青海地方に青海あり。その他西北地方には湖沼多し。

氣候

(三) 氣候 境域廣大なるがゆゑに、各地の氣候一樣ならず、かつ、多くは大陸性の氣候なり。黄河より北方は、冬季甚だ寒く、河水は三四ヶ月の間氷結し、渤海もまた凍る。されど、夏季には暑氣強し。黄河より南方は、夏季に暑さも、冬季は溫暖にて、殊に南嶺以南は、熱帯に入る。以上の諸地方は、氣候風の影響を受けて、雨量多さも、沿海の地方は、夏秋の際に、恐るべき颶風の襲來ありて、大害を蒙ることあり。

蒙古、西藏等の高原地方は、寒氣強く、雨量極めて少なし。され

産物

ど、夏季には暑氣頗る強し。

(四)産物 東部と南部とは、土地肥え田圃よく開け、住民農耕を勤むるゆゑ、農産物甚だ多く、米・麥・豆類・高粱・綿・茶・砂糖などを産出すること多く、養蠶・牧畜も盛んなり。鑛物にては、鐵・石炭に富み、金・銀・銅なども少なからず。また崑崙山の玉は有名なり。

地方誌

(五)地方誌 清國の域内を、支那本部・滿洲・蒙古・新疆・青海、および西藏の六部に大別し、更に支那本部を十八省に、滿洲を三省に分つこと左の如し。

支那本部の十八省

- 直隸 山東 河南 陝西 甘肅
- 江蘇 浙江 安徽 江西 湖北 湖南

支那本部

- 四川 福建 廣東 廣西 貴州 雲南

滿洲の三省

- 奉天 吉林 黑龍江

(1)支那本部

支那本部は、清國の東南部にて、東南は海に臨み、内地には大河流通し、交通便利、地味肥沃、物産豊饒にて、清國最要の部分なり。左に域内十八省の概略を述ぶべし。

直隸省は、古の燕趙の地にて、支那本部の東北部を占め、南に渤海を控へ、北に長城横斷す、白河中央を流れ、地勢大抵平坦なり。北京は、清國の首府にて、人口百六十餘萬ありと稱す。全府を高壁にてめぐらし、府内を内城・外城に分つ。内城には、皇城・諸官衙・各國の公使館などあり。外城は、住民の市街にて、繁

北京

直隸省

天津

太沽



北京城

承德府は、一に熱河と稱して離宮あり。

盛なり。北京の東南、白河を下れば天津あり。繁盛なる貿易港にて、北京より鐵道通じ、羊毛、茶などを輸出す。されど、冬季には河水の氷結すること三ヶ月に及び、更に天津より白河を下るときは、河口に太沽あり。また天津の北方に開平の炭坑あり。その東北なる山海關は、滿洲に通ずる要路にて、長城はここより起る。北京より東北方、長城外にあ

山東省

芝罘
威海衛

膠州灣

山西省

河南省

開封府

陝西省

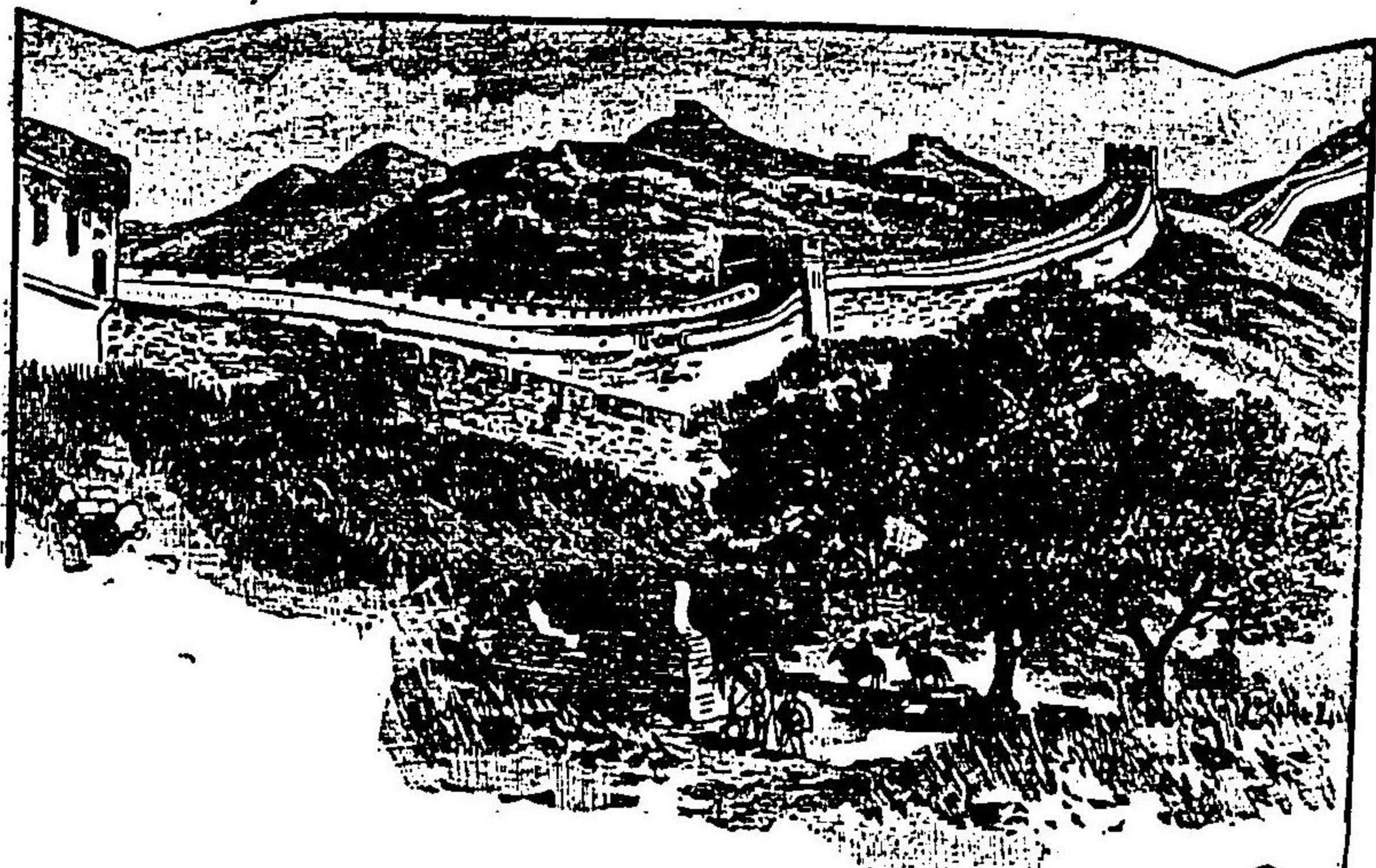
西安府

山東省は、直隸省の南東にあり、黄河横貫し、運河縦貫す。山東半島は、黃海中に突出し、沿岸には芝罘、威海衛、膠州灣などの良港あり。芝罘は貿易港の一にて、豆類を輸出す。威海衛は、二十七八年戦役の時に、わが軍に陥れられ、今は英國これを借る。膠州灣は、天然の良港なるに、今は獨逸にてこれを借る。山東省内に、孔子および孟子の廟あり。

直隸省の西には山西省ありて、黄河その西境を限る。河南省は、黄河の南にあり、洛水域内にて黄河に入る。東部に開封府あり、西部洛水の北に河南省ありて、こは古の洛陽なり。

陝西省は、河南省の西方にあり、渭水、漢江、域内を流れて黄河に入る。西安府は、本省の首府にて、古の長安なり。周、漢、唐などの都せし地にて、古蹟甚だ多く、近年、北清事變の時には、清帝

甘肅省



北京より難をこの地に避けられたり。また秦の都せし咸陽は、その西北にあり、始皇帝の建てし阿房宮の遺蹟あり。甘肅省は、陝西省の西に接す。萬里の長城は、本省の嘉峪關にて盡く、長城は、もと周の戰國時代に、漢人種が、北方の蠻族匈奴を防がむがために築きしものにて、秦の始皇帝これを修築せるなり、實に世界大工事の一なり。

江蘇省

更に東海岸に至れば、揚子江、下流の流域なる江蘇省あり、地勢平坦にて、揚子江の外に、運河縦貫し、土地肥沃、物産豊饒、水利至便なり、黃浦江によりて揚子江に通ずる海岸に、上海あり、清國第一の貿易港にて、外國人の居留するもの多く、わが國人も一千人に及べり、絹布、綿布、生絲、茶などを輸出すること多し。上海の西北に蘇州あり、本省の首府にて、古は吳の都せしところなり。



上海

蘇州

上海

鎮江
江蘇府

り。楊子江の南岸に鎮江あり、その西方の江寧府は、いはゆる南京にて、學者文人多く、實に清國の技藝文學の集るところなり。絹布陶器筆墨などを産出すること多し。

浙江省

杭州

浙江省は、江蘇省の南方にあり、土地肥沃、氣候佳良なり。杭州は、本省の首府にて、開港場の一なり。錢塘江に臨み、運河の起點なり。運河は、この地より北方楊子江、黄河を貫き、白河に達せり。長城と共に大工事にて、隋の代に穿てりといふ。東南の

寧波

海岸には寧波および温州の開港場あり。寧波は、上古わが國の遣唐使などの上陸せし港にて、またポルトガル人などの

温州

始めて支那に來りし時も、貿易せし港なりき。温州よりは、温州蜜柑を輸出すること多し。

安徽省

安徽省は、江蘇省の西方にあり、楊子江、域内を貫流す。首府安

安慶、蕪湖

江西省

慶は、江の左岸にあり、開港場蕪湖は右岸にあり。

江西省は、浙江省の西方にあり、域内に鄱陽湖ありて、その水楊子江に入る。土地肥沃にて、茶を産すること多し。鄱陽湖の

九江

楊子江に通ずるところに九江あり、開港場にて、陶磁器の名産地なり、また茶を輸出すること多し。

湖北省

武昌

湖北省は、安徽省の西にあり、楊子江、漢江の流域にて、平野廣く連り、灌溉運輸ともに至便なり。楊子江の南岸に武昌府ありて、本省の首府なり。その對岸には漢口あり、楊子江と漢江

漢口

と合流するところに位し、楊子江畔第一の繁盛なる開港場にて、茶を輸出すること盛んなり。また武昌の近傍には有名なる赤壁あり、その西方楊子江を上げば、沙市、宜昌の開港あり、宜昌は楊子江汽船航路の終點なり。

沙市、宜昌

り、宜昌は楊子江汽船航路の終點なり。

湖南省

長沙府

四川省

成都

重慶

福建省

湖南省は、湖北省の南方にあり、北方に洞庭湖あり、域内の河水はみなこれに入る。洞庭湖は、支那本部第一の大湖にて、風光明媚なり、長沙府は本省の首府なり。

四川省は、湖北湖南兩省の西方にあり、土地肥沃、物産豊饒なり。されど、西方は山岳重疊して西藏に接す。また東北境には、蜀の棧道ありて、陝西省の漢中に至るべし。成都は本省の首府にて、古三國の時、蜀の都せしところなり。重慶は、楊子江畔開港場の一なり。本省には、農産物多く、また鹽井、石油井などあり。

福建省は、わが臺灣と臺灣海峡を隔ててあひ對す。内地には山岳連亘すれども、氣候溫和にて、茶を産すること多し。閩江、域内の中央を流れ、その江口より數里の上流に福州あり、本

厦門

廣東省

瓊州

廣州府

香港

省の首府にて、また繁盛なる開港なり。茶、紙、砂糖を輸出す。西南海岸の厦門島上に厦門港ありて、また繁盛なる開港場なり。

廣東省は、福建省の西南にあり、域内には山岳多きも、廣東河の流域に平地多し。但し廣東河は、東江、西江、北江の總稱にて、西江は本流にて最も大なり、また下流を珠江と稱す。海岸は屈曲多く、南方に雷州半島ありて、海南島とあひ對す。海南島は、一名を瓊州島といふ。島中の瓊州は開港場の一なり。廣東河口の廣州府は、一名を廣凍と稱し、本省の首府にて、また南部開港場の最も繁盛なるところなり。生絲、絹帛、茶、砂糖などを輸出す。この地には、舟居のもの多く、およそ四萬の舟筏を浮べ、三十萬の水上住民ありといふ。香港は、廣東の前面にあ

澳門

る小島なれども、英吉利領にて、貿易甚だ盛んなり。近時、また香港附近のランタオ島と對岸の地とを英國に貸せり。また香港の西方に澳門といふ小島あり。ポルトガル領の貿易港にて、古來瑪港と稱して繁盛なりしに、香港の開けしよりその勢振はずなりぬ。

廣西省

廣西省は、廣東省の西北にあり、廣東河の本派西江上流の地域にて、山中に蠻民住居す。西江の左岸地に、近時開港場となりし梧州あり。

梧州

貴州省
雲南省

貴州省は、湖南省の西にあり。雲南省は廣西貴州二省の西にあり、いづれも僻遠の山地にて、交通不便、土地瘠す。されど、域内は鑛物に富めり。

滿洲

(2) 滿洲

地勢

滿洲は、清朝基業の地にて、支那本部より東北に位し、北と東とは、露領と韓國とに境し、南は遼東灣に臨み、遼東半島その東に突出す。域内を、奉天、吉林、黑龍江の三省に分つ故、東三省とも稱す。(奉天省は一に盛京省と云ふ)

西境には、興安嶺の山脈南北に走り、東境には、長白山脈連互して、韓國との境をなし、北境には、黑龍江流れ、水深くて水運の便、漁業の利あり、松花江、烏蘇里江これに入る。烏蘇里江の水源なる興凱湖に魚類多し、また遼河は、南流して遼東灣に入り、流域に平野多し。

氣候

氣候は大陸性にて、寒暑いづれも烈しく、殊に十月頃より翌年四月頃までは河水凍る。地味頗る肥沃にて、高粱、豆類を産すること多く、北部は森林に富み、牧畜は各地に行はれ、また

産物

野獸多く、獸皮は輸出品の一にて、殊に貂皮シロカをおもなるものとす。

奉天省	營口	奉天府	旅順口	吉林省	吉林省	吉林府
-----	----	-----	-----	-----	-----	-----

奉天省は、支那本部の直隸省に接し、山海關はその境界にあり。それより遼東灣に沿ひて北東行すれば、遼河の左岸に營口ありて開港場なり。普通に牛、トナリと稱し、豆類を輸出するこ
と多し。遼東半島の金州、旅順口、九連城などは、二十七八年戦
役の古戰場なり。旅順口は、山東省の威海衛と、渤海の口を扼
して要害の地なるに、今は露國の借地たり。遼河を上れば奉
天府あり、一に盛京と稱し、清朝の舊都にて、滿洲第一の都會
なり。毛皮の貿易盛んに行はる。
吉林省は、滿洲の東部にて、東は圖們江にて韓と境し、烏蘇里
河にて露領と境す。吉林府は、本省の首府にて、松花江の上流

庫倫	遊牧	氣候	地勢	蒙古	愛琿	齊々哈爾	黑龍江省
----	----	----	----	----	----	------	------

にあり、烟草、毛皮の貿易盛んなり。
黑龍江省は、滿洲の西北部を占め、松花江によりて吉林省と
境し、北は黑龍江にて露領と境す。齊々哈爾は、本省の首府な
り。それより北方黑龍江の右岸に愛琿あり、露領に接して要
害の地なり。近傍に金鑛多し。
(3) 蒙古
蒙古は、清國の北部にて、全域みな高原なり。中央に戈壁の大
沙漠ありて、その北を外蒙古、南を内蒙古といふ。氣候は、大陸
性にて寒暑いづれも甚しく、かつ沙漠には猛烈なる暴風の
起ることあり。地味は農産に適せず、人民は常に遊牧をなし、
牛、馬、羊、豚、駱駝などを飼ふ。
蒙古の首府を庫倫といふ。牧畜盛んに行はれ、また喇嘛教徒

買城

多く、その寺院は壯麗なり。更に北に進み、露領の境に**積買城**あり、露國と茶などの貿易盛んなり。

新疆省

(4) 新疆省

地勢

新疆省は、蒙古の西にあり、古の西域と稱したる地方にて、天山脈、東西に連亘し、域内を二部に分つ。北を天山北路、南を天山南路といひ、もと天山南路を回疆と稱し、天山北路を新疆と稱せしを、この兩部と甘肅省の一部とを合せて新疆省となせるなり。天山北路には伊犁河貫流し、天山南路には塔里木河流れ、河の流域には、平野ありて農業行はるれども、多くは牧畜をなし、また崑崙山よりは、金銀寶石を産す。氣候は、寒暑いづれも甚しくて不良なり。

迪化府

首府迪化府は、天山脈の北麓にありて、甘肅省の嘉峪關よ

産物、氣候

青海

(5) 青海

り、露領に出づる要路に當れり。なほ西すれば、國境に近く伊犁府あり、また塔里木河の流域に、葉爾羌、喀什噶爾などの都邑あり。

西藏

(6) 西藏

青海地方は、清國の中央にて、甘肅省と西藏との間にあり。山岳連亘して、地勢峻險なり。黄河楊子江の二大河の分水嶺となる。東北隅にある青海は、鹹湖にて、周回百餘里あり、人民は牧畜を業とす。

地勢

西藏は、崑崙山系とヒマラヤ山系との間にあり、平地の高さ平均一萬二三千尺にて、世界第一の高原地なり。各處に湖水多く、諸川の源をなす。域内を二部に分ち、東部を前藏、西部を

氣候物産

後藏といふ。氣候は寒暑ともに烈し、産物は家畜にて、その最も必要なるを犁牛とす。犁牛は常に重荷を負はしむるに用ひ、その肉および乳を食用とし、毛にて織物を製し、骨および角にて器具を造る、また麝香を産す。

拉薩

首府を拉薩といひ、前藏にあり、喇嘛教の教主達賴喇嘛の住するところにて、その宮殿および寺院は甚だ壯麗なり。市街も清潔にて商業頗る盛んなり。西藏人は深く喇嘛教を信じ、僧侶甚だ多く、佛像佛具金銀細工などを製出すること多し。

住民

(六) 住民 清國の住民は蒙古人種にて、これを區別する時は、漢族、通古斯族、西藏族、苗族、蒙古族、トルコ族の六種族に分る。この中漢族は最も重要なものにて、その數およそ三億六千萬あり、主として支那本部に住み、古より支那の開明を

種族

言語

氣質

風俗

なししは、實にこの人種なり。通古斯族は、主として滿洲人にて、多く滿洲地方に住む、今の清朝は、この族種より起れるなり。西藏族は、西藏に住み、苗族は、支那本部南西の山中に住み、蒙古族は、多く蒙古、および青海地方に住み、土耳其族は、多く

新疆省に住む。



婦 清國はその版圖廣大にて、人種の別も多きゆゑ、各地言語を異にす。人民は、勤儉にて忍耐に富み

商利に敏なれども、全國民一致共同の心念に乏し、辮髮滿洲服は、清朝になりてより、一般に行はれ、また鴉片の吸烟、女子

宗教



毒中

などに行はれ、基督教も各地に行はる。

教育は、いまだ普及せず。學校は、多く官吏を養成するを目的とす。されど、近時、各地に學校を設けむとする舉あり。

(七)政治 君主專制の國にて、中央政府には内閣あり。次に吏部・戸部・禮部・兵部・刑部・工部の六部衙門ありて、政務を分ち

政治
中央政府

教育

掌る。内閣の外に、辨理軍機所ありて、内閣の實權はここにあり。別に海軍衙門、理藩院、都察院、および總理各國事務衙門あり。理藩院は、蒙古、青海、西藏の藩部の政令を掌り、都察院は、政治の得失、官吏の風紀を察し、總理外國事務衙門は、外國に關する事務を掌る。

地方政治

地方には、支那本部の各省、または二三省を兼ねて一總督を置き、また直隸、四川、甘肅を除く外の各省には、巡撫を置き、省の下に、府、州、縣ありて、知府、知州、知縣を置く。滿洲即ち東三省の各省には、將軍を置き、蒙古、青海、西藏は理藩院にて管理す。兵制を見るに、陸軍に、八旗兵、綠旗兵、勇兵の三種あり、八旗兵に、漢軍、八旗、滿洲、八旗、蒙古、八旗の別あり、また直隸、江蘇の二省には、殊に練軍を置く。海軍は、二十七八年戰役の時、北洋艦

兵制

生業



茶 園 製 造 舟 積

隊を全滅せられ、いま
 だ回復するに至らず。
 その他に、南洋、福建、廣
 東の三艦隊あれども
 見るに足らず。

製出すること多く、生絲、茶、砂糖を製することも多し。近年、紡

(八) 生業 清國は、農
 産物に富み、牧畜盛ん
 に、鑛物多し。工業は、い
 まだ發達せざれども、
 織物、陶磁器、漆器、金屬
 器、玉器、筆墨紙などを

績、製鐵、造船などの新工業起りぬ。

清國人は、商業に長じ、外國貿易も發達し、水陸の貿易場を合
 せて三十八所あり。取引は日本、英、吉利、印度、露西亞との間に、
 最も盛んに行はる。

交通

(九) 交通 交通はいまだ不十分なれども、南部には大河多
 く、また大連河ありて水運便利なり。沿海には汽船の往來盛
 んにて、わが日本郵船株式會社、大阪商船株式會社の汽船も、
 絶えず航行す。鐵道の既成は、いまだ多からざるも、近來、歐米
 各國にて、鐵道敷設の權を得て、工事に著手するゆゑ、將來は
 大いに便利となるべし。北部の道路はやや開けたれども、西
 部の山地に入れば、險路多く、交通運搬に不便なり、手車と稱
 する一輪車にて運搬をなす。郵便、電信は、頗る發達せり。

第四章 亞細亞露西亞

境域

(一) 境域 亞細亞露西亞とは、清國の北西方一帯の地方にて、東は太平洋、北は北氷洋、西は歐羅巴洲に境し、域内をシベリア、中央亞細亞、ユーカシアの三部に分ち、悉く露西亞國の領土なり。

(1) シベリア

(一) 地勢 シベリアの廣さは、わが國に三十倍す。海岸線は頗る長さも、多くは氷凍して、航行の利に乏し。

地勢を大別する時は、高原地と平原地との二大部となる。高原地は東南部にて、阿爾泰山脈よりヤブロンイ山脈、スタノボイ山脈の連亘せる部分なり、平原地は、西北の部分にて、オ

面積八十一萬六千六百
人口六百萬
地勢、海岸

河流

ビエニセイ、レナの三大河貫流す。眼望際限なき廣原なれども、北部は凍土帶と號し、地下まで氷凍して、夏季には、その表面少しく融解して澤地をなす。それより南方は、森林帶として、松樺などの喬木繁茂し、猛獸その間を徘徊す。黒龍江は、中流まで航行の利あり、下流の沿岸は平地なり。バイカル湖は、高原地の中央にあり、世界淡水湖の最も深きものなり。

氣候

(二) 氣候 南方には、山脈連亘して、溫暖なる風を遮り、北方は、平原にて北氷洋の寒風を受くるゆゑ、氣候寒冷なり。一年の三分の二は、氷雪にて覆はる。されど、全く大陸性の氣候なる上に、夏季には晝間甚だ長さゆゑ、暑氣意外に甚し。

産物

(三) 産物 オビ河の流域に麥類を産し、中部の森林帶は木材に富み、その中に栗鼠、貂、熊、兔、狐など多く、これを獵して毛

皮を出だすこと甚だ多く、牧畜も頗る盛んなり。高原地には、

鑛物多く、金銀鉛銅鐵などに富む。またカムチヤッカ半島の近海は、水産物にて有名なり。

地方誌

(四) 地方誌 シベリアは、政治

を行ふ上より、黒龍江地方、東部

シベリア西部シベリアの

三部とす。

黒龍江地方とは、東南部の

沿海州と、黒龍江州との地

方なり。ウラヂボストクは、

沿海州にあり、ペートル大

黒龍江地方
ウラヂボ
ストク



ウラヂボストク

帝灣に臨み、港内安全なり。軍港と商港とを兼ね、露領東面の要鎮にて、また貿易繁盛なり。ただ冬季は、数月間氷結すれども、なほ軍事のためには、碎氷船によりて出入することを得。鐵道によりて北行すれば、烏蘇里河の黒龍江に合するところに、ハバロフカ府あり、黒龍江地方の首府にて、黒龍江總督の居るところなり。その東北黒龍江の河口には、ニコライスク港あり、本港より韃靼海峽を渡れば、サガレン島即ち樺太島に至る。島の東南岸にコルサコフ港あり、わが國漁業者の滞留するもの多し。

ハバロフカ府より西行すれば、東部シベリアのチタ府に達すべし。その西南なるキヤクタは、支那の贛贛城と接し、貿易盛んなり。バイカル湖の南西にあるイルクーツク府は、シベ

東部シベ
リア

西部シベリア

リア屈指の大都にて、獸皮市場の中心地なる上に、東部シベリア總督の居るところなり。
西部シベリアは、露國內務省の直轄なり。イルクーツク府より、更に西行すれば、オビ河の支流トム河に臨みて、トムスク府あり、シベリア第一の大都にて、人口五萬二千餘あり、大學校を設く、近傍より砂金を産すること多く、また製革の業盛んなり。トムスク府より西行すれば、オムスク府に至り、オムスク府の西北には、トボルスク府あり。

住民

(五) 住民政治 住民の數は、いまだはなほだ少なく、六百萬人に充たず。土人は、蒙古人種にて、七十萬人に過ぎず。露國政府にては、熱心に殖民し、犯罪人などを追放するゆゑ、年々に増加す。

政治

シベリアは、上に述べしが如く、三大部に分ち、更に八州に區劃す。西部は、露國內務省の直轄にて、他の二部には、總督を遣して治めしめ、州には知事を置く。

交通

(六) 交通 シベリアには、郵便電信の設けあり、また橇を犬に引かして、人を乗せ物を運ぶ。有名なるシベリア大鐵道は、ウラル山脈東邊のミアスクに起り、オムスク・トムスク・イルクーツク・チタを經、それより黒龍江の左岸に沿ひ、ハバロフカを經て、ウラヂボストクに達するものにて、全長四千八百哩ありといふ。この大鐵道は、バイカル湖以西、すでに開通し、湖上は汽船にて連絡す。また東方は、ウラヂボストクより、ハバロフカまで成工せり。ハバロフカより西方バイカルに至る間は、工事困難なるにより、滿洲を經てウラヂボストクに

至る東清鐵道を計劃し、工事殆ど成れり。この大鐵道完成の後には、世界の交通商業などの上に、一大變動を生ずべし。

(2) 中央亞細亞

中央亞細亞は、シベリアの西南より、裏海に至る地方にて、東は清國に接し、中にアラル海ありて、シル河、アム河これに注ぎ、東にバルハン湖ありて、イリー河これに入る。

地勢は、東南境のバミル高原より、漸次西方に傾き、裏海の沿岸地に至りては、海面より八十尺餘の低地となる。故に東南部を除く外は、一般に平原なり。氣候は、大陸性にて、時として沙漠地に、烈しき熱風を起すことあり。雨量は少なし。産物は、馬・羊・駱駝の外に、綿・果實などあり。

タシケントは、南部中央の沃野にあり、商工業盛んなり。その

面積二十萬八千方里
人口八百萬

地勢

氣候

産物

地方誌

住民

面積三萬
方里九百
人口三十萬
境域

地勢

氣候

産物

南にあるサマルカンドは、昔チムールの都せしところなり。その西方にはブハラ府あり。北部にはオムスク府あり。露國よりオムスクとタシケントとに總督を置きて、この地方を管治せしむ。住民は、多くトルコ種族にて、近來、露國より移住せしものも多し。大抵遊牧を業とすれども、農業を勤むるも少なからず。

(3) ユーカシア

ユーカシアは、裏海と黒海との間の地方にて、中央にコーカサス山脈連亘し、全土を南北に分つ。北部は寒氣強き草原にて、産物に乏しく、南部は温暖にて、雨量多く、田園牧野あひ連り、穀物・果實・羊毛を産す。また裏海に近きバークーより、石油を産すること多し。

地方誌	面積八萬 方里一千 八百萬 人口一千 八百萬 境域	地勢
<p>黒海の沿岸にポナ港あり、汽車にて東すれば、ナフリスを経て、裏海沿岸なるパークー港に達す。パークーは軍港にて、この附近より石油を産し、ナフリスは、總督府のある處なり。</p>	<p>第五章 亞細亞トルコ附アラビア</p>	<p>(一) 境域 亞細亞トルコは、亞細亞洲の最西部にて、北はコーカシアおよび黒海マルモラ海に臨み、西は地中海に濱し、東はペルシアに接し、南の一部はペルシア灣と紅海とに臨みアラビアを挟む。</p> <p>(二) 地勢 地中海に臨む海岸は、出入多く、海上には島嶼多し。國內は、大半高原地なれども、ナグリヌ、ユーフラテス兩河の流域は平野にて、上古、バビロニア、アッシリアなどの興亡せ</p>

地方誌	産物	氣候	小亞細亞	シリア
<p>し地方なり。西南方にある死海は、深谷にありて、その水面地中海より一千三百尺低く、また鹹味非常に強くて、魚類生育せず。</p> <p>(三) 氣候・産物 氣候は、寒暑の差甚しく、殊に南部は炎熱なれども、黒海・地中海に濱する地方は溫和なり。産物は、葡萄酒・草・珈琲・無花果・鐵石炭、および草類・羊毛などなり。</p> <p>(四) 地方誌 域内を、小亞細亞・アルメニア・メソポタミア・シリヤの四部に分ち、全土みな土耳其帝國に屬す。</p> <p>小亞細亞は、黒海と地中海との間にある半島にて、スミルナ府は、商業繁盛なり。シリヤは、小亞細亞の南方、地中海に臨む地方にて、古のユダヤ國の興亡せしところなる上に、基督教の起源地なれば、遺蹟多し。ダマスカスは、隊商の集るところ</p>	<p>葡萄酒、草、珈琲、無花果、鐵石炭、および草類、羊毛などなり。</p>	<p>氣候は、寒暑の差甚しく、殊に南部は炎熱なれども、黒海・地中海に濱する地方は溫和なり。</p>	<p>小亞細亞は、黒海と地中海との間にある半島にて、スミルナ府は、商業繁盛なり。</p>	<p>シリヤは、小亞細亞の南方、地中海に臨む地方にて、古のユダヤ國の興亡せしところなる上に、基督教の起源地なれば、遺蹟多し。</p>

にて、また絹布・鐵器の製造にて著はる。その西南にあるゼル
 サレムは、基督の墳墓のある地なり。
 アルメニアは、小亞細亞の東方の高
 原地にて、その南方は、メソポタミア
 なり。古代のバビロン城・ニニベ城な
 どの遺墟あり。

面積二十
 萬方里
 人口五百
 萬

アルメニ
 ア
 ミソポタ

アラビ
 (五) ア
 フアラビ
 アは、亞細亞
 洲西南部の
 大半島なり。
 南西端のア



珈 琲 樹

デンは、英吉利の領地なれども、その他の沿岸は、多く土耳其
 に屬す。東南海岸に、ハサおよびオーマンと稱する小獨立國
 あれども、その實は英國の保護を受く。また北部には、エジプ
 トの屬地あり。
 内地は、多く沙漠にて、氣候炎熱なり。住民は遊牧を事とし、各
 部落に酋長あり。産物は、馬・護謨・駱駝・珈琲殊に有名なり。この
 國は、回教の教祖モハメットの生れし地にて、メッカはその生地
 メデナはその死地なり。

第六章 イラン地方

イラン地方とは、中央亞細亞の南方高原地にて、東はスリ
 マン山脈と印度河とによりて印度に境し、西は亞細亞

イラン地
 方

トルコに接し、南はアラビア海とペルシア灣とに臨む。これをペルシア・アフガニスタン・ベルナスタンの三國に分つ。

(1) ペルシア

ペルシアは、イラン高原の西部にありて、東部より中央にわたる沙漠なり。その廣さ全國の三分の二に及ぶ。北方には、エル・ブールズ山脈あり、南はペルシア灣とオスマン灣とに臨む。氣候は寒暑の差甚しく、降雨少なく、從ひて河流に乏し。産物は、麥・烟草・果實・砂糖・鴉片・絹布などにて、山地には森林繁茂せり。

首府テヘランは、北部にあり、その南方のイスバハン、舊都なり。またブシルは、ペルシア灣に臨み、貿易盛んに行はる。

地方誌

面積十一萬九百

境域

地勢

氣候

産物

政治
面積三萬六千四百
人口四百
境域、地
産物、氣
候
首府
住民、國
勢
面積二萬
方里
人口五十
萬

この國は、君主專制の獨立國なれども、國勢振はず、英吉利と露西亞との勢力の間に立つものなり。

(2) アフガニスタン

アフガニスタンは、イラン高原の東部北半にて、域内に山脈連亘すれども、河流の沿岸には肥沃なる平地あり。米・麥・玉蜀黍などを産す、氣候は、寒暑いづれも甚し。

首府をカブールといひ、東北の高地にあり。住民は、多く遊牧を業とし、多くの部落に分る。英露兩國の領地に挾まれるゆゑ、從來、しばしば兩國の争を起ししに、今は大抵英國の勢力の下に屬す。

(3) ベルナスタン

ベルナスタンは、アフガニスタンの南方にありて、域内に山

岳多く、土地不毛なり。首府をケララトといひ、印度よりベルン
アに通ずる要路に當る。この國は、酋長の支配なれども、その
實は英國の保護國なり。

第七章 印度

(一) 境域 印度とは、もとのわが國にて天竺國と稱したる地
方にて、北にヒマラヤ山系を負ひ、南方印度洋に突出したる
大半島なり。

(二) 地勢 西方はアラビア海に濱し、南端にコモリン岬あ
り、その東南海上のセロン島は、本地との間にマナール灣
を抱く。北境のヒマラヤ山系は、非常の高度を以て、六百餘里
に連亘し、その中に、高さ二萬五千尺に達するもの四十餘峯

面積二億
六千萬方
八千二百
九十里

地勢

海岸

山脈

山脈、平
原

河流

氣候

あり、最高峯エバレストといへるは、二萬九千尺あり、わが富
士山の二倍以上にて、世界第一の高峯なり。

ヒマラヤ山系の南側は、急に下りて大平原をなす、これをヒ
ンドスタン平原と稱す。この平原の南方には、ベンガア山脈
東西に連亘し、その南部の東海岸には、東ゴーツ山脈、西海岸
には西ゴーツ山脈ありて、地勢おのづから高原をなす、これ
をデッカ高原といふ。

ヒンドスタン平原には、インダス、ガンジス、ブラマプトラの
三大河ありて、運輸灌漑を便し、殊にガンジス河の下流は、ブ
ラマプトラ河を合せ、大三角洲を造る。デッカ高原にも大河
あれども、急流にて航行に適せず。

(三) 氣候 氣候は炎熱なれども、ヒマラヤ山地とデッカ高

産物



棉花トガシマノ岸ノ器粟園

原とは溫和なり。六月より九月までは、西南季候風、印度洋より多くの水蒸氣を送り来るゆゑ、雨期と稱して降雨多く、殊に東北地方は多雨なり。十一月より翌年三月頃までは涼期にて、氣候爽快なれども、

三月より六月までは暑期なり。

(四)産物 地味肥沃にて、氣候暑く、降雨多きゆゑ、動植物能く生育し、農産物甚だ多く、米・麥・粟・棉・藍・茶・珈琲・鴉片・甘蔗などを出だすこと多く、榕樹

地方誌

その他の材木・金・銀・銅・鐵・石炭・金剛石・眞珠および象・獅子・虎・豹・犀などの獸類、孔雀・鸚鵡の如き鳥類、并に毒蛇・毒蟲なども多し。

(五)地方誌 首府カルカッタは、

ガンジス河の下流地にあり。人口八十六萬を有し、印度第一の大都會にて、印度政廳の所在地なり。カルカッタより海岸に沿ひて西南行すれば、マドラスに至る、西海岸の中央にはボンベイあり、人口八十二萬、商業の繁盛



榕 樹

印度第一なり。セ・ロ・ン・島は内地に山岳多きも、海岸に平地あり、西岸にある。ユ・ロ・ン・ポは、東西の航路に當る要港なり。

政治

(六)政治・住民 印度のポルトガル領・佛蘭西領は、極めて小

部分なり。またヒマラヤの南麓に、ネ・バールとブータンとの獨立國ありて、酋長これを支配す。その他は、悉く英領にて、こ

れを直轄部と藩部とに大別し、直轄部には、總督・知事などを

置き、藩部は、土人の王にて治めしむ。印度大總督は、カルカッタ

府にありて、全印度領を總轄す、また陸海の兵備あり。

住民

住民は、多くユー・カ・サス人種のヒンヅール族にて、古より嚴重

の階級ありき。上古、開明に赴き、支那とともに、亞細亞文明の

母なりしかども、その後、國勢振はず、殆ど全土みな他國の領

地となりぬ。されど、英國にては、力を教育に用ひ、また鐵道を

宗教

設け、航路を開き、諸般の有様、大いに進運に向へり。

宗教は、佛敎の本國なれど、現今は信者少數にて、多くは羅・婆・門・敎を信じ、また回・敎・基・督・敎を信するものもあり。

印度支那半島

第八章 印度支那半島

境域

印度支那は、印度の東方にある大半島にて、北方は清國に接す。西方はベンガル灣に臨み、マライ半島長く南に突出す。その東方に暹羅灣深く入る。更に全半島の東方は、支那海に臨み、北方にトンキン灣あり。

地勢

山脈は、南北に連互し、河流は、みな南流す。イラワヂ・メナム・メコン・サルウンの諸河を大なりとす。域内をビルマ海峽殖民

區劃

地・暹羅・佛領・印度・支那の四部に分つ。

ビルマ
面積三萬
方里
人口八百
萬

(1) ビルマ



シラガボール

ビルマは、印度支那の西北部にて、英領なり。サルウィン、イラワ
ダの二河、國內を流れ、地味肥沃な
り。産物は、米を第一とし、次に綿、砂
糖などを産す。首府をラングーン
といひ、イラワダ河の下流地にあ
り、盛んに米を輸出す。鐵道にて北
行すれば、マンダレーに達す、もと
ビルマ國王の都せし地なり。

(2) 海峽殖民地

海峽殖民地とは、マライ半島の南
部英領の地方をいふ。半島の南端にシンガポールといふ小

海峽殖民
地

暹羅
面積三萬
方里
人口五百
萬

島あり、島中のシンガポール港は、良港にて、東西交通の要路
に當り、船舶輻輳す。

(3) 暹羅

暹羅は、印度支那半島の中央を占むる獨立王國にて、北部と
西部とは山地なれども、メコン河、東部を流れ、メナム河、西部
を流れ、いづれも運輸灌漑の利あり。かつ兩河の流域には平
野多く、地味また肥沃なり。

氣候は乾濕二季に分れ、六月より九月頃までは、炎熱多雨に
て、その他は、冷涼にて雨少なし。産物は、米を主とし、その他、砂
糖、烟草、綿、象牙、寶石などなり。

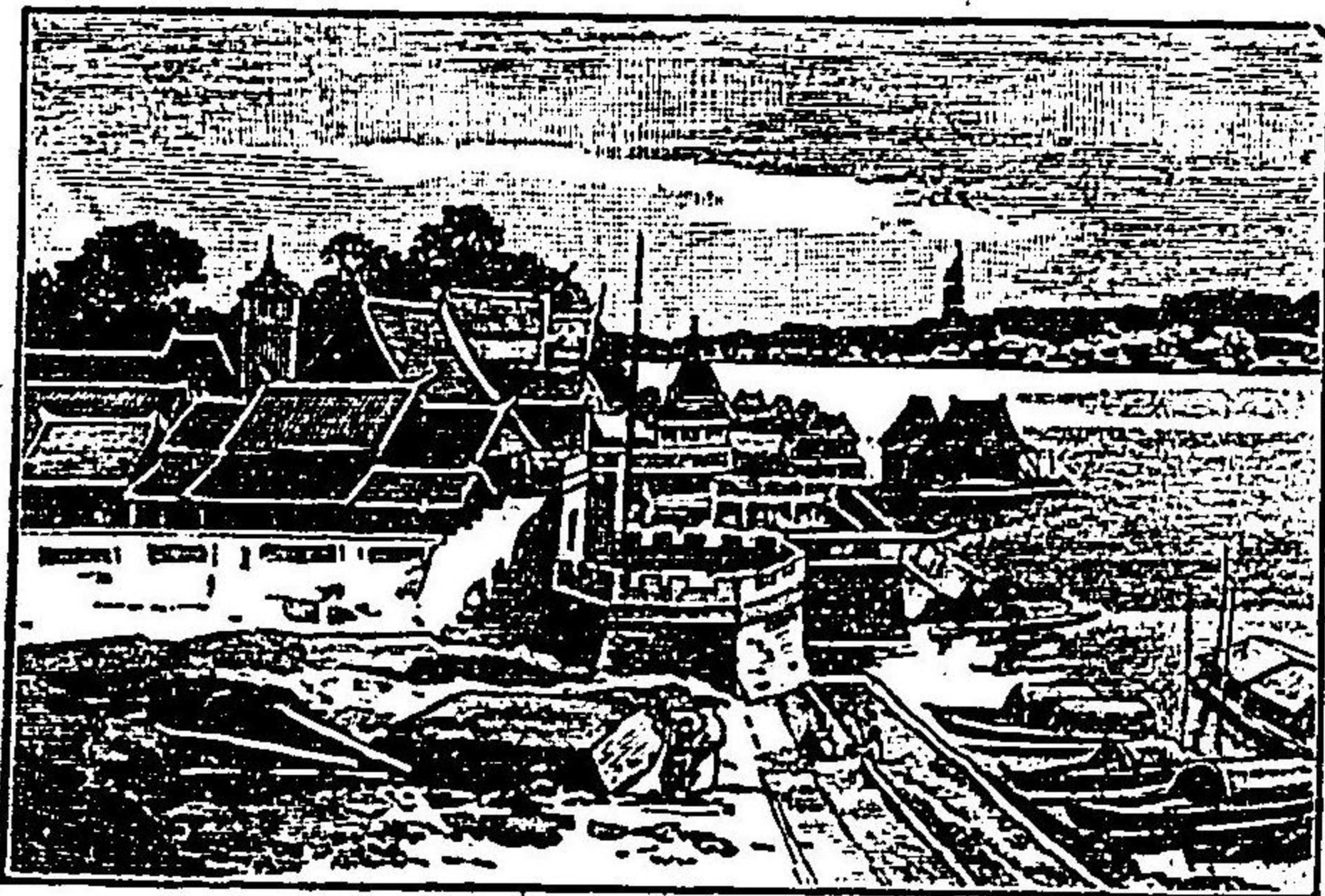
首府バンコクは、メナム河の下流地にあり、人口二十五萬を
有す、府内に寺院多し。政體は、君主專制にて、古より山田長政

の事蹟を始め、わが國と關係少なからざりき。今もわが條約國の一なり。近年、國王は、熱心に文明を海外より輸入して進進に向へり。住民は、多く蒙古人種にて、佛教を信ずるもの多し。

(4) 佛領印度支那

佛領印度支那は、印度支那半島の東部にて、その域内をトンキン、アンナム、コーチン、カンボヂヤの四部に分つ。トンキとコーチンとは、まづたく佛領にてその他は佛國の保護國なり。

佛領印度支那
面積四萬方里
人口二十萬



ク、コ、ン、バ

國內、大抵平地にてなれども、トンキン河北部を流れ、メコン河南部を流れ、その流域は地味肥沃なり。氣候は、暹羅と似たり。産物は米を第一とし、その他、肉桂、綿烟草、胡椒、木材などを出だす。

トンキンは北部にあり、ハノイ府はトンキン河の南岸にあり、その東方海岸にハイホンといふ良港あり。トンキンの南方はアンナムにて、首都をユエ府といふ。カンボヂヤは、アンナムの西方、暹羅の南方にあり。その南方はコーチンにて、メコン河口のサイゴンは、佛領印度支那を治むる總督の居るところにて、米を輸出すること盛んなり。

マライ諸島

第九章 マライ諸島

マライ諸島とは、印度支那の東南にある群島の總稱にて、東印度諸島ともいふ。北方はバシール海峽を隔てて、わが臺灣とあひ對す。諸島には、活火山甚だ多く、屢地震あり。フィリピン諸島・マラッカ諸島・スンダ諸島に大別し、これを和蘭・英吉利・亞米利加合衆國にて分ち領す。

和蘭領

(1) 和蘭領

和蘭領は、マライ諸島の四分の三以上なり。即ちマラッカ諸島と、スンダ諸島中の一部分を除きたるものとを領す。スンダ諸島中には、スマトラ・ジャバ・ボルネオ・セレベス・チモールなどの島あり。スマトラ島は、僅に一海峽を隔てて、マライ半島とあひ對し、島中に火山多きも、肥沃の平野もあり。また氣候は炎熱なれども、海風によりて和らげられ、雨量も多きゆゑ、米・珈

スマトラ島

パンカ島

ジャバ島

琲砂糖・烟草樟腦などの産あり。東南岸に近きパンカ島は、有名なる錫の産地なり。ジャバ島は、スマトラ島の南東にあり、島内に鐵道電信などの設けあり、かつ産物に富み、住民もおよそ二千六百萬あり。西北岸にあるバタビアは、商業繁盛なる港にて、また和蘭總督の居るところなり。産物は、砂糖・珈琲・幾那などなり。

ボルネオ島

セレベス島

ボルネオ島は、ジャバ島の北方にある大島にて、北部の外は和蘭領なり。島内には、バプアと稱する殘忍なる土蠻住む。産物は、金・金剛石・石炭・樟腦などにて、山林には狸々棲む。セレベス島は、ボルネオ島の東にあり、島中に火山多きも、氣候溫和にて、穀類・珈琲・綿などを産す。マラッカ諸島は、セレベス島の東方に散在し、丁子・荳蔻・肉桂などの香料を産す。

マラッカ諸島

英吉利領

(2) 英吉利領

英吉利領は、ボルネオ島の北部とその北西海上にあるラアンとの小島に過ぎず。

北米合衆國領

(3) 北米合衆國領

わが臺灣の南方に散在するフィリピン諸島は、もと西班牙領なりしに、近年、米西戦争の後に、西班牙より合衆國に讓與せしものなり。諸島は、大小一千餘ありて、ルソン、ミンダナオはその大なるものなり。氣候は、全年夏のみなるも、夜間には涼風あり。四月より九月までは雨期にて、八九月の頃には暴風を起すことあり、その餘響は、わが國にも來る。産物は、烟草、麻、砂糖、米、珈琲、藍などなり。ルソン島の西南岸にあるマニラは、人口十五萬餘を有し、貿易盛んにて、殊にマニラ烟草の名、世

人事約説

住民

人種

に高し。

第十章 人事約説

住民の多少

(一) 住民 亞細亞洲の住民には、およそ三種あり。蒙古人種、コーカサス人種、マライ人種これなり。蒙古人種は、主として支那、日本など、東部亞細亞に住み、その他、北部、南部、西部にも住む。總數およそ五億五千萬あり。コーカサス人種は、主として印度と西部亞細亞に住み、總數およそ二億八千萬あり。マライ人種は、マライ半島とマライ諸島に住み、その數およそ二千萬内外なりといふ。故に本洲の人口は、およそ八億五千萬ありて、世界人口の半數以上なり。住民の多少は、氣候、山川、地味などに關係するものにて、本洲

國勢

の東部と南部との日本・清・印度は、住民最も稠密にて、蒙古・シベリア・アラビア等には、最も稀少なり。

(二) 國勢 支那・印度・ペルシア等は、いづれも上古より頗る開明し、國勢大いに振ひたりしが、人民進取の氣象に乏しく、國勢次第に退歩し、印度の如きは、既に英國の領地に歸せり。本洲には、國と稱するもの數多きも、その中にて獨立國は、僅にわが日本・韓・清・暹羅・ペルシアの五國にて、その他は歐洲諸強國の領地、もしくは保護國なり。かつ五獨立國の中にて、獨り日本は立憲帝政の國にて、教育兵備とも、歐米の強國と肩をならぶれども、その他は、みな專制政治にて、殊にペルシアの如きは、殆ど獨立國たる實なく、清國の如きすらも、往々歐米諸國に侵害せらる。またアフガニスタン、の如きは、たとひ

獨立國

表面獨立の如くなるも、實は英吉利の勢力に制せられ、印度のネパール・ブータン、およびアラビアの獨立部落の如きは、その勢力いふに足らざるなり。

生業

(三) 生業 本洲は、天産物に富み、農産物・樹木・鳥獸・魚介・鑛物など、いづれも多く、牧畜の業も頗る盛んなり。住民の多數は、農耕・牧畜に従事すれども、既に天産物に富み、鐵石炭など多きゆゑ、工業にも大いに便利なり。近年、日本・印度などの工業は、頗る發達したれども、將來なほ力を盡すべき餘地甚だ多きなり。商業貿易も、年を追ひて隆盛に赴く。

交通

(四) 交通 本洲の内地には、山岳・沙漠などありて、いまだ人跡の至らざるところさへあれば、道路は甚だ不完全なり。駱駝または馬にて運搬し、北部の地方にては、馴鹿および犬に

鐵道

橋を引かしたむ。鐵道は、いまだ普及せざれども、わが日本および印度などには頗る多く、清國にも漸次敷設せられむとす。今、亞細亞洲鐵道の重なるものをいはむに、最も有名なるはシベリア鐵道にて、完成の日に至らば、ウラヂポストクより、露西亞の國都セントペートルスブルグまで十日ほどにて達し得るに至るべし。中央亞細亞には、トランスカスピアン鐵道ありて、裏海の東岸より、サマルカンドに至る。東清鐵道は、シベリア鐵道の支線にて、殆ど完成し、またその線は、南に延びて南部滿州鐵道となり、奉天府および海城、金州などを經て、旅順口に至らむとす。北清鐵道は、清の首府北京より、天津、山海關を經て、營口に至り、遂に南部滿州鐵道に連絡せむとす。

航路

本洲には、大河多く、大船をも上下せしめ得べくして、水利多し。航路は、もと歐洲より東洋に至らむに、亞弗利加洲を廻航せしが、スエズの運河成りしより、大いに便利となれり。わが日本の長崎より、韓、清の諸港を經て、印度支那の東南岸より、シンガポールに寄港し、更に印度の諸港、アラビアのアデンを經て、紅海に入り、スエズの運河を通りて地中海に出づ。電信は、頗る發達し、わが國および清、印度などの一國內の電線の發達せる外に、露西亞の國都より、シベリアを經て、ウラヂポストクに至るもの。また露都より中央亞細亞を經て、北京および上海に至るもの。歐洲の土耳其より、亞細亞トルコ、ヘルシア、印度、印度支那の諸都邑を經て、香港、長崎に通ずるもの。シンガポールより、シバを經て、オーストラリアに至れ

るものなどありて、通信大いに便利なり。

自然總説

第三編 太平洋洲

第一章 自然總説

太平洋洲は、亞細亞洲の南東方、太平洋中に散在する無数の群島と、オーストラリア大陸との總稱なり。多くは赤道の南方にあるゆゑ、南洋諸島の稱あり。面積およそ六十萬方里、人口およそ五百五十萬あり。

區劃

本洲の區域は、甚だ廣く、島嶼の數も甚だ多けれども、これを大別して、オーストラリア・メラネシア・ミクロネシア・ポリネシアの四部に區劃す。

オーストラリア
面積四十萬方里
人口四百萬

第二章 オーストラリア

附クスマニア・ニュー・ワールド

境域 地勢 海岸 山脈 河流

(一) 境域 オーストラリアは、今よりおよそ四百年前に發見せられ、その後、歐洲人の移住せしもの甚だ多きも、内部の地理いまだ明かならず。されど、移住するもの年々に増加す。

(二) 地勢 海岸は、頗る單純にて、北方にカーペンタリア灣あり、その東にヨーク半島突出し、その近岸に、長さおよそ五百里の珊瑚礁あり。東南部の海岸には屈曲多く、從ひて良港に富む。南岸に、スペイン・サー・灣と濠洲灣とあり。

内地は、廣漠たる沙漠または草野にて、四周は高し。殊に東南部に山脈あれど、高峻ならず。その最高峰にても、七千二百尺あるのみ。西海岸は、およそ一千尺の高原をなす。河流にては、ムルレイ河を最大なりとす。長さ五百餘里、運輸灌漑の利多

湖沼 氣候 産物 植物



し。内部に湖沼多く、大抵鹹湖にて、アイヤ湖最も有名なり。

護謨樹にて、高さ二百五十尺、周圍二十尺以上に達するもの

洗 金 洲 濠

(三) 氣候 北部は炎熱なれども、南部はやや溫和なり。東部は雨量多きも、西部と内地とは降雨甚だ少なく、二三年間一雨のなきことあり、從ひて炎熱甚し。

(四) 産物 オーストラリアの動植物には、特有なるものあり。植物にて有名なるは、コーカリ樹、即ち濠洲

動物

あり。動物には、カンガルー、鴨嘴カウチの如き、奇形の獸類、および羽

農業牧畜

毛の美麗なる鳥類多し。されど、歐洲人の移住せしより、農業、牧畜の業、次第に盛んになり、小麦、玉蜀黍、葡萄、甘蔗、烟草などを産し、牧畜にては、羊を主要とし、その頭数は世界第一にて、羊毛、羊肉を輸出すること多し。牛馬も頗る繁殖す。また、鑛物に富み、金、銀、銅、鐵、錫、石炭などを出だすこと多く、その他、沿岸には眞珠貝を産す。

地方誌

區劃

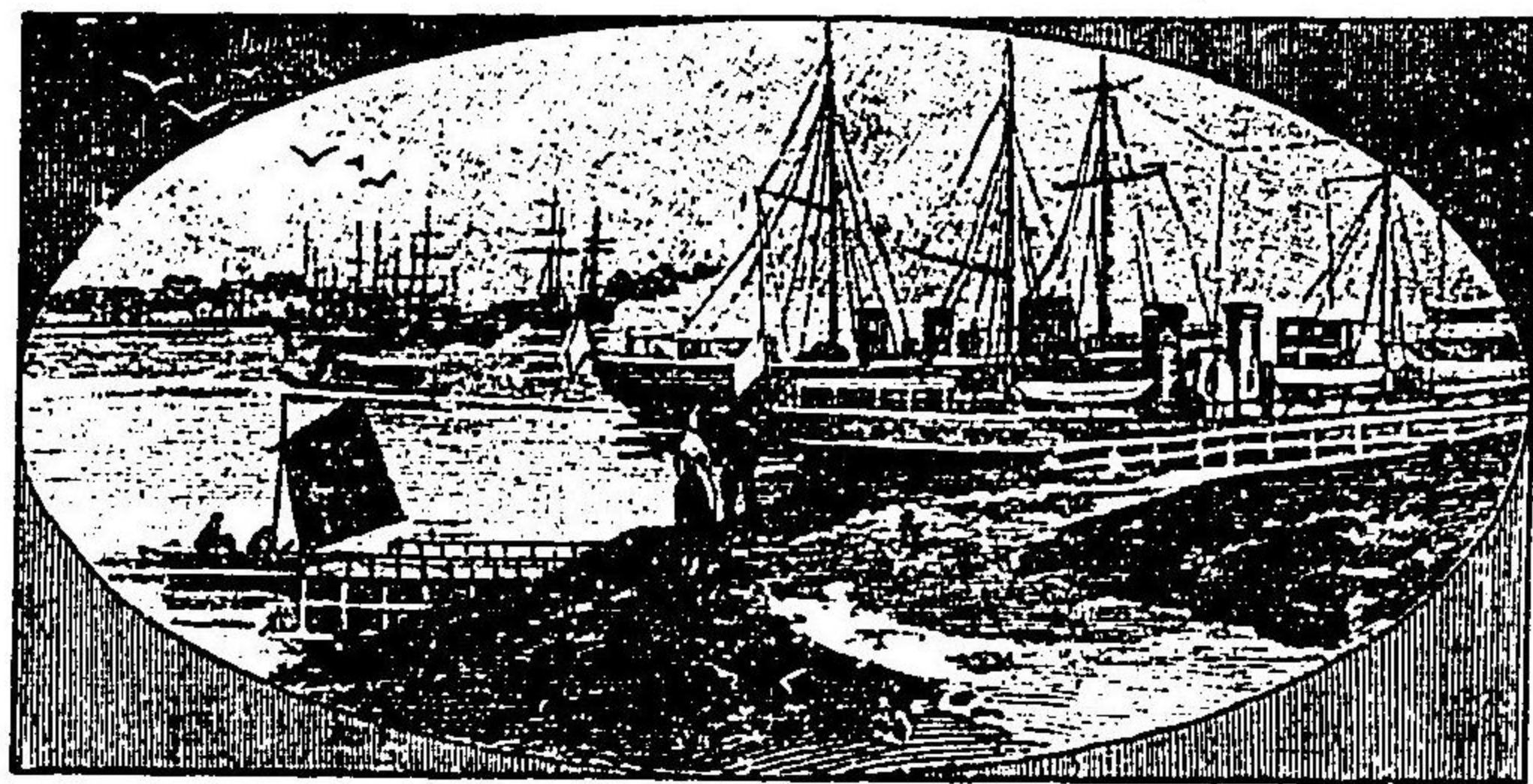
ピクトリア州

(五) 地方誌 オーストラリア大陸を分ちて、ピクトリア、ニューサウスウェールズ、クィーンズランド、南オーストラリア、西オーストラリアの五州に分つ。また、この大陸の東南に、タスマニア、ニューギニアあり。

ニューサウスウェールズ州

クィーンズランド州

く、首府メルボルンは、人口四十八萬ありて、貿易盛んなり。わが横濱より、およそ五千浬あり。本州より、金、羊毛を産すること多し。ニューサウスウェールズ州は、ピクトリア州の北方にあり、最も古き殖民地にて、羊、牛、馬の牧畜盛んなり。首府をシドニーといひ、人口およそ四十五萬を有し、市街繁盛なり。クィーンズランド州は、ニューサウスウェールズの北方にあり。首府をブリスベーンといひ、羊毛の輸出盛んなり。ヨーク半島の北端、海上の木曜島には、わが國人の眞珠貝を



メルボルン

採收するもの多し。

南オーストラリア州は、本陸の中部を占め、首府をアデレードといひ、南岸にあり。西オーストラリア州は、本陸の西部を占め、首府をパースといひて、西南岸にあり。この兩州は、内地いまだ開けず、人口従ひて少なし。

タスマニア島は、ビクトリア州の南方にありて、バス海峡を隔つ。島内に山多く風景よろしく、氣候溫和にて産物多く、羊毛、木材、鐵、錫、石炭などを出だす。首府をホバルトといふ。

ニュージラランドは、オーストラリア大陸の東南およそ一千二百哩の海上にありて、二大島に分る。島内には山脈連亘し、南島には一萬二千餘尺の高峯あり。氣候は、溫暖にて降雨多く、小麦、燕麥など能く熟し、牧畜にては、羊多く、鑛物にては、金

南オーストラリア州

タスマニア島

ニュージラランド

石炭など多し。北島の南岸に、首府ウリントンあり、北岸にオークランド港あり。

住民

(六)住民政治 元來の土人、即ちオーストラリア黑人種は、

教育

次第に減少して、現今は僅に五六萬人に過ぎず、故に住民の多數は、歐州より移住せし白人種なり。教育は頗る進歩し、シドニー、メルボルン、アデレードには、大學の設けあり。

政治

オーストラリア大陸、タスマニア、ニュージラランドは、いづれも英吉利の領土なり。政治は、自治制にて、各州に議會を設くれども、また各州に英國皇帝より任命せる總督あり、かつ現今は、オーストラリアの五州と、タスマニアとの六州にて、聯邦を組織して、大總督を置けり。

第三章

メラネシア ミクロネシア ポリネシア

メラネシ

メラネシアとは、黒人島の義なり。オーストラリア大陸の東北にある群島の總稱にて、ニューギニア島最も大なり。その外に、ビスマルク諸島、ソロモン諸島、ニューヘブリッド諸島、ニューカレドニア諸島、フジー諸島などあり。

ニューギニアは、一にバプア島と稱し、英獨蘭の三國に分屬す。山脈中央を貫き、一萬八千尺の高峰あり。氣候炎熱にて、降雨多く、木材果實に富み、その他砂糖、珈琲、椰子などを産す。土人は、バプアと稱する蠻民なり。

ミクロネ

シニアは、メラネシアの北方にある群小島にて、わが小笠原島に近し。諸島は、火山島または珊瑚島にて、英國獨國。

ポリネシ

北米合衆國等に分屬す。この群島の西北にある南鳥島は、近年、わが領地となり、信天鳥の羽毛を産す。

ポリネシアとは、多島地方の義にて、メラネシアの東方にある群島の總稱なり。諸島の性質に、火山島と珊瑚島との兩種あり。熱帯中にあれども、海風のために氣候溫和なり。諸島の中に、サンドウヰチ諸島を最も著名なりとし、北米合衆國に屬し、その他の諸島には、英領佛領獨領あり。

サンドウヰチ諸島
ハワイ島

サンドウヰチ諸島は、またハワイ諸島と稱す。二十餘の小島より成り、ハワイ島最も大なり。わが横濱よりは、東南方およそ三千四百哩にあり。氣候溫和にて、健康に適し、地味肥沃にて、産物は砂糖を第一とし、珈琲、米などを産し、牧羊も行はる。本群島には、土人の數、僅に三萬五千人に過ぎざるに、支那人。

日本人などの移住民多く、わが國人のみにてても、五萬八千人に及べり。ホノルル府は、オアフ島の南岸にありて、商業頗る繁盛なり。

人事約説

第四章 人事約説

住民

(一) 住民・國勢 住民には、土人と外國人とあり、土人はマライ人種、およびオーストラリア黑人種にて、蒙昧なる蠻族なり。多くは定住せず、中には人肉を食するものもあり。されど、歐米人の移住せしより、蠻族は次第に生活力を失ひ、その數年々に減少し、ある部分にては、殆ど絶滅せしものあり。これに反して、外國より移住するものますます多く、支那人とわが國人との移住するもの次第に増加す。

國勢

國勢を觀るに、ポリネシア中のトンガ諸島は、獨立の王國なれども、その他は、悉く歐米諸國の領土にて、英國の領地最も多く、オーストラリアの諸州の如き、近年その國勢大いに發達せり。

生業

(二) 生業・交通 諸島には、農産物豊かにて、砂糖・穀類など多く、また森林・果實も少なからず。牧畜は、羊を始めとして、牛馬を飼ひ、礦物は、金・銀・石灰など多きゆゑ、將來有望の地方なり。工業は、いまだ盛んならざれども、次第に興隆の傾向あり。

交通

交通は、オーストラリア大陸に鐵道ありて、東南部には頗る發達し、電信は、大陸を横ぎり、かつ海底電線は、シンガポールに達す。郵便の制もよく行はれぬ。航海路も頗る開け、オーストラリア大陸の諸港を始めとし

て、歐米諸國より汽船航海し、またわが日本郵船株式會社の汽船も、横濱より、長崎・香港などを経て、オーストラリアの諸港に至る。

地理教本 (外國編上終

明治三十五年十二月九日印刷
明治三十五年十二月十二日發行

地理教本外國編與付

定價	上卷 金五拾錢
價	下卷 金五拾五錢

著 者 瀧 本 澄 三

著 者 榎 山 榮 次

印發 者兼 印刷行 株式會社普及舍

東京市日本橋區吳服町一番地

代 表 者 中 川 九 郎

取締役

賣 捌 所 各府縣特約賣捌所

不 許 複 製

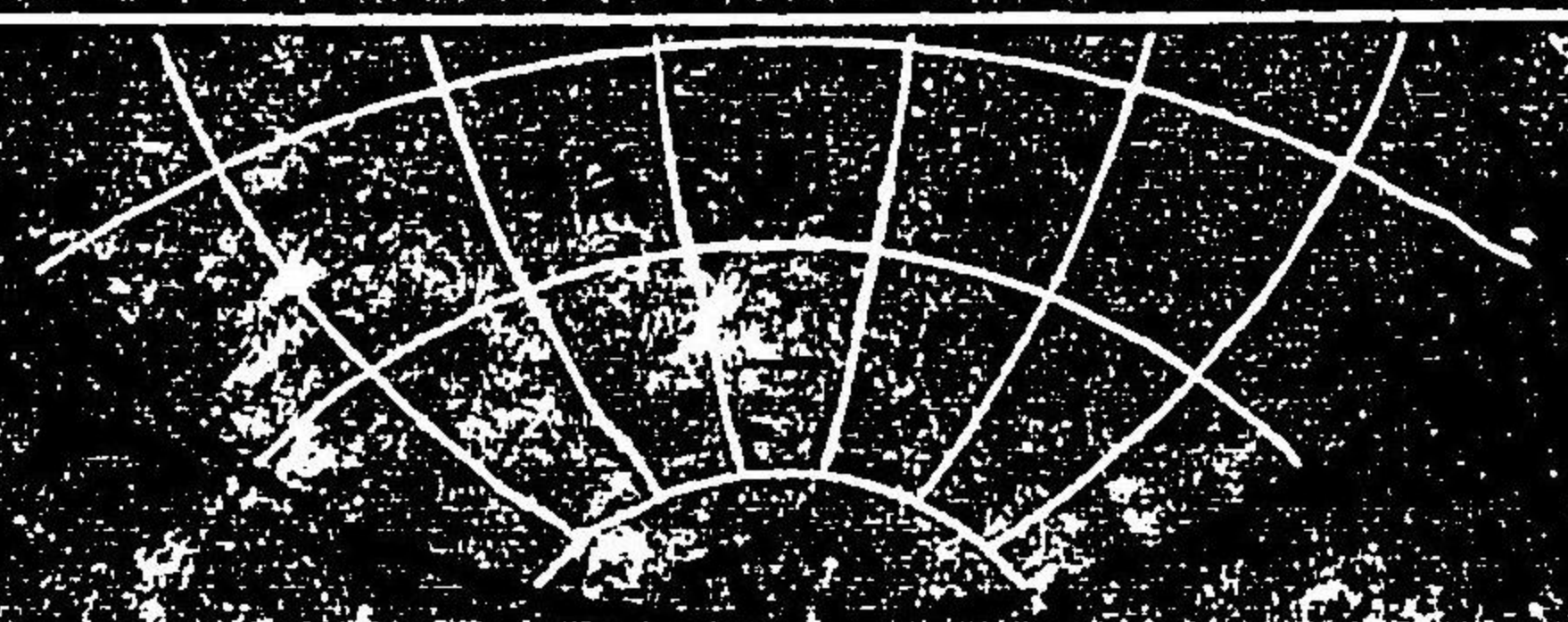
86
334



86

234

(M)



[Faint, illegible text on the left page of an open book. The text is too light to be transcribed accurately.]

[Faint, illegible text on the right page of an open book. The text is too light to be transcribed accurately.]